

平成30年度 築上町日中友好相互交流事業報告



築上町日中友好相互交流事業実行委員会

平成三十年度日中友好相互交流事業に参加して

団長 築上町長 新川 久三

本年の日中友好相互交流事業は代表児童二十三名と引率九名で常州市金壇区薛埠鎮の薛埠中心小学と南京市六合区竹鎮の竹鎮中日友好希望小学校と交流するため訪中を致しました。

さて一行三十二名は十一月七日午後二時過ぎ空路福岡から上海に向い、上海浦東空港で江蘇省常務委員会外事委員会副主任の張宏さんの出迎えを頂き、バスで陸路常州市のホテルに向ったが、途中高速道路での大事故で本来なら夕方六時半にホテルに着く筈が午後十時三十分を越えての到着で夕飯がそれまでお預けで午後十一時に皆さん食事を取ることができ、全員が予期せぬ出来事で疲れた一日でした。

翌八日は築城小学校と姉妹校の江蘇省常州市金壇区薛埠中心小学を訪問のため八時半にホテルを出発し九時半に小学校に到着して、学校の講堂でお互いに出し物を出し合い交流を深めました。特に今回は双方の児童で縄跳びを行い例年に無い親密な交流が出来たと思います。

昼食は金壇区主催の昼食会で金壇区副区長劉明江さん外五名の接待を受け、食事を致しましたが児童の皆さんは中国の食事になれてなかった様に思いました。

午後一時から再び小学校に行き体育と美術の授業に参加し交流を深めました。言葉は通じませんが手振り身振りでお互いの意思を通じ合っているように側から感じました。

午後三時に次の訪問地の南京市に向け出発を致しました。南京市に到着後にレストランで食事を済ませ夜七時に議事園ホテルに到着しました。九日（金）は九時から南京博物院に行き、中国六千年の歴史の勉強を

致しました。中国の歴史は長く規模の大きさをこの目で確認でき、この歴史が日本に伝来してから日本の特有の文化に変化をし、現在の日本を発展・構築してきたことを改めて考えました。そして文字は漢の時代に伝わり現在我々が使う字は中国文化をそのまま日本に伝承している事をヒシヒシと感じています。

博物院の見学後は議事園ホテルの近くのレストランで昼食を取りましたが、子どもの皆さんは中国食に少しは慣れてきているように感じました。

昼食後にバスで竹鎮中日友好希望小学校に四十分かけて直行を致しました。校門での大歓迎を受けました。そして現在校舎の大規模改修と校庭の整備を行ない、校庭は環境に配慮した公園風に整備がされてい

ました。子ども二十三名は三班に分かれて縄跳び、中国独楽廻し、美術の授業に参加して交流を深めました。皆さんは言葉は通じませんが、身振り手振りでお互いの意思が通じていたのではないかと感じました。

私は薛埠鎮の教育委員会の朱さんと筆談で話を致し、字だけでもお互いの意思は伝わるということが立証でき楽しくもあり嬉しくもありました。

福岡県議会が寄付をして建てた教室で相互交流の挨拶会があり、それぞれの校長の挨拶、児童の挨拶等と最後に両校の記念品の交換で会を終了いたしました。

今回の築城小学校と椎田小学校の姉妹校への日中友好相互交流事業は十分にその責務を果たしたと参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。参加者の皆さんに於いても今回の訪問の体験を多くの方に報告をお願い

日中友好相互交流事業を終えて

実行委員長 椎田小学校 校長 宮内 智久

平成三十年十一月七日（水）から十日（土）の三泊四日で、団員二十三名と共に中華人民共和国江蘇省を訪問し、二つの姉妹校と交流を行ってきました。

私は平成二十八年に事業が再開した時からの参加ですが、その時参加した小学生団員が発した未だに忘れられない二つの言葉があります。一つは、交流会で相手校の発表を見ている時、「先生、僕たちの発表、あの程度でいいんですか。」という心配そうな声での質問でした。交流会の出し物としてドラえもんやソーラン節の踊りを日本で十分練習してきたのですが、民族衣装を着た踊りや社交ダンスなど初めて見る素晴らしい出し物に圧倒され、自分たちの出し物が心配になったのでしよう。

もう一つは、福岡空港に着いてすぐトイレに駆け込んだあと、出てきた団員の「やっぱり、日本のトイレ、最高」という嬉しさ一杯の言葉でした。中国のあまりにもオープンなトイレの経験からでしょう。でも、これらは初めて見たり聞いたり経験したりしたからこそ、出てくる本音の言葉だったと思います。

この相互交流事業の目的は、姉妹校と友好を図ると共に、子どもたちに異文化を体験させることで国際感覚を養うというものです。今年も、子どもたちがどのような経験を積んでどんな感想を持つて帰るのか、とても楽しみでした。

さて、今回、初めて町内の八つのすべての小学校から応募がありました。椎田小学校と築城小学校は応募者多数のため抽選でそれぞれ七名ずつとなりましたが、合わせて二十三名で結団式を行いました。三回の事前研修では、お互いあまり慣れなかった子どもたちも、四日間「同じ釜の飯を食べば」ではないですが「同じ円卓の中華料理を食べば」みんなしっかりと打ち解け、その結果、交流会では息の合った歌や「ソーラン節」・「エビカニクス」の踊りを堂々と披露することが出来ました。

また、本年度は、写真にもあるように町のイメージカラーである黄緑色のウィンドブレーカーを着用して交流会に臨んだことも、団員の一体感を高める一助となりました。

交流会の他に、今年は、「実際に授業を通しての交流を行いたい。」というこちらからの提案で授業交流を実現することが出来ました。築城小学校の姉妹校「薛埠中心小学」、そして椎田小学校の姉妹校「竹鎮中日友好希望小学校」の両校において、体育では縄跳びをしたり美術では作品作りをしたりしました。はじめ緊張して何をしていたのかわからなかった子どもたちも、ニコニコする中国の子どもたちの笑顔に次第に打ち解け、言葉は通じなくても身振り手振りで意思疎通を行い、直接ふれあうことでお互いの国の文化を肌で感じる有意義な交流会となりました。

私たちも、実際に授業を見せてもらったことは大変参考になりました。中国では小学校一年生から中学のように教科専科制で、指導技術は高いものでした。また、授業内容も、美術や体育も伝統文化を大事にしながら新しい物や技術を取り入れたものでした。作品を選んだ理由や作った作品のよさを発表させるなど、個性を生かし、自分の考えを主張できる子どもの育成をめざす教育方針は私たちも学ばなければならぬところだと感じました。

交流会や授業以外にも、子どもたちはさまざまな体験を行うことが出来ました。オープンなトイレにはじめは戸惑っていた子どもたちも、先生がしてみせることで、これも体験とばかりに試すことができ、次の学校ではもうすっかり慣れていました。ほかにも回転式テーブルで初めて見るものがいっぱい中華料理をみんなで取り分けたり、歓迎晩餐会ではジュースを飲み干すたびにすぐにグラス一杯にしてみらえたりしました。また、南京博物院では、さまざまな国宝級の宝物をじっくり見ることが出来ました。

公式の場では、初めての経験で緊張した中にも交流会を成功させたという満足感、そして、同じ中学校に進学する団員相互の深い交流と友情が生まれ、子どもたちにとって充実した忘れられない四日間になったと感じています。

なお、今回のように応募者が増えたことはこの事業の趣旨が広まった結果だと喜ぶ反面、来年度以降団員の選考方法や研修の回数など検討していかなければならないと思います。

最後に、このような機会を与えていただいた関係者の皆様、そして、お子様を快く参加させていただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。

築上町日中友好相互交流事業

九州中日青少年友好交流大会 8月1日（水）

- 12:30 築上町築城支所出発
- 14:30 2018九州中日青少年友好交流大会（福岡市）開会
築上町小学生と薛埠中心小学生の合唱「春天在哪里」
- 16:30 2018九州中日青少年友好交流大会（福岡市）閉会
- 18:00 築上町築城支所到着

中国江蘇省常州市金壇区友好交流訪日 8月2日（木）

- 10:00 築城小学校と薛埠中心小学校との交流会（ソピア）
- 11:20 調印式（コマーレ）
- 12:30 交流会、小原神楽上演（蔓松亭）
- 13:40 施設見学（有機液肥製造施設、アグリパーク、築城中学校、築城小学校）

築上町日中友好交流訪問団結団式及び事前研修

○結団式 10月20日（土）13:30～14:00

- ・団長、実行委員長の話
- ・団員紹介

○第1回事前研修会 10月20日（土）14:00～16:00

- ・日中友好訪問の意義
- ・班編制、役割分担決め
- ・中国語の練習

○第2回事前研修会 10月28日（日）9:00～12:00

- ・挨拶等の練習
- ・交流会出し物練習
- ・中国語の練習

○第3回事前研修会 11月3日（土）9:00～12:00

- ・挨拶等の練習
- ・交流会出し物練習
- ・中国語の練習
- ・出発に向けての最終確認

中 国 訪 問

11月7日（水）

10：30 築上町出発（バス）
13：55 福岡空港発 中国東方航空 518 便（機内食）
15：45 上海浦東空港着、入国審査
（これより現地時間 1h 遅い）
16：30 常州市へ出発（バス）
22：30 ホテル着（宿泊：金壇区 維也納国際大酒店）

11月8日（木）

7：30 朝食
9：30 薛埠中心小学訪問 交流会
12：00 昼食
13：30 薛埠中心小学授業体験（体育、美術）
15：00 南京市へ移動（バス）
16：30 南京市城壁・下町見学・買い物
18：30 ホテル着（宿泊：南京 江蘇議事園酒店）

11月9日（金）

7：30 朝食
9：30 南京博物院見学
12：00 昼食
14：00 竹鎮中日友好希望小学校訪問
学校見学、授業体験（唐こま、とび縄、手芸）
15：45 南京市へ移動（バス）
18：30 ホテル着（宿泊：南京 江蘇議事園酒店）
江蘇省人代主催夕食会

11月10日（土）

7：00 朝食
9：00 上海へ移動（新幹線）
12：30 上海浦東空港にて搭乗手続き・出国審査、買い物
14：20 中国東方航空 5087 便（機内食）
17：15 福岡空港到着後、入国審査 出発（日本時間）
19：30 築上町着、解団式

児童の作文

中国に行つて分かったこと

下城井小学校 後藤 南菜子

私は中国に行つて分かったことがたくさんあります。

一日目は、初めて中国の飛行機に乗り、機内食はおいしかったです。中国に着くと雨だったので残念でした。移動のバスの中で見た金色のお寺は、今までに見たことがないくらいきれいで驚きました。バスはとても長かったです。

ホテルから見た中国の夜景はとてもきれいでした。ホテルの食事はとてもごうかで、中華料理を久々に食べたので辛かったです、おいしかったです。ホテルもとてもきれいでよかったです。

二日目も雨でした。朝の食事はバイキングで、これもおいしかったです。その日は、金壇区に行きました。まず、その小学校と交流会をしました。中国のみんなはとてもダンスが上手でかっこよかったです。中国の生徒さんにプレゼントをもらいました。中には色々な物が入っていて、うれしかったです。そして、お昼ご飯を食べました。おいしかったです。

小学校のみなさんの授業を見ました。体育でしたが、日本とか

なり違う体育でした。みんな一生けん命で、しっかり先生の話を聞いていて、すぐくえらいと思いました。積極的に私をなわとびにさそつてくれました。中国のみんなは、なわとびが上手でしたし、私が失敗しても笑顔で優しく接してくれました。記念撮影の時にも優しく立ち位置などを教えてくれ、握手もしてくれました。次は図工でした。図工では絵を描きました。私と中国人の女の子で、いすを描きました。女の子は絵が上手すぎてびっくりしました。

おみやげに帽子を四つ買いました。百十六元を百十元にしてくれました。それで、帽子をもう一つ買いました。その時も三十九元を二十九元に安くしてくれました。他のお店の店員さんも優しくかったです。とても楽しい一日でした。

三日目は博物院に行きました。交通量が多く、すごく危ないです。バスのぎりぎりを自転車がついていて怖かったです。バイクも普通のようにぶつかってクラクションばかり鳴らして、日本ではありえないと思いました。建物がすごく高かったです。行く途中に、木で作っているととても大きなクジャクがありました。

博物院の中では、色々な事を教えてくれました。昔、生活でつ

かっていた石がありました。六千年前の器がありました。日本では、弥生時代（二千年前）にやつと器ができたそうです。「中国は四千年も早いなんてすごいな。」と、思いました。服により身分がかわり、お墓のサイズなどでも身分がかわるそうです。「日本と同じ所もありそうだな。」と、思いました。六千年前の女の人は、その時代からおしゃれになろうとしていたそうです。ネックレスなどは王様が使えて一般人は使えないそうです。それから、船もありました。船は木で作られ、彫られていて、「とても大きくてすごいな。」と、思いました。「昔の中国の人は、こんなすごい物を作っていたんだな。」と、思いました。打楽器もありました。日本はそんな昔に打楽器など作っていなかったのに、中国は作っていたので驚きました。二千二百年前のお金もありました。

その日の食事はいつもと違いました。すごくおいしかったし、おもしろかったです。ジュースがなくなったらすぐについでくれたからです。最後に、ラーメンも食べました。これもおいしかったです。

四日目は、電車と飛行機に乗りました。中国の電車に初めて乗りました。日本とかわらなくてきれいでした。飛行機に乗り、日

本に着いてトイレに行ったら、ティッシュがあつてうれしかったです。そして、日本語が通じるので楽に話せました。

私が中国で分かったこと、感じたこと、思ったこと、行つてみてよかつたと思うことは四つあります。

一つ目は、空気が思っていたより大丈夫なことです。行く前は、のどが痛くならないか心配だったけど、大丈夫だったのでよかつたです。

二つ目は、夜景がきれいなことです。とてもきれいでした。

三つ目は、中国の子どもは優しいことです。二校とも子どもが優しくとてもほっとしました。

四つ目は、建物が大きいことです。全部大きかったです。

中国に行く前は、初めてだったので、少し不安だったけれど、行つてみたらとても楽しかったです。中国に行つてよかつたと思いました。いい経験になりました。

中国に行つて学んだこと

下城井小学校 佐藤 惺南

私は、十一月七日から十一月十日までの間、中国に行きました。中国に行った理由は、築上町の取組で、中国の学校を訪問し、中国と日本で交流を行い、友好を築こうという目的です。中国を訪問して気づいたことや日本とどのように文化が違うかなどを学ぶことができました。学んだことが四つあります。

一つは、中国に行つて初めてバスに乗っているとき、日本の車が走っていたことです。Hはホンダ、Sはスズキなどの日本の車が走っていました。中国に行く前は日本の車は走っていないと思つていましたが、行つてみると日本で見慣れた車が走っていましたし、中国の車もあつて新鮮でした。また、中国の道路には車線が四つあつて、小型車も大型車も同じ道路で走っているのは日本と同じだけど、やっぱり道路が大きいことにびっくりしました。今思い出してもびっくりしてしまうくらい印象に残っています。

二つ目は、車よりバイクの方が多くことが印象に残っています。昔からバイクに乗る人が多いと聞きました。しかも、車と

バイクで道路が分かれていて、バイクの道路を初めて見て驚きました。バイクの数が多かったので、日本とは違うところがあると思いました。また、日本の信号機は丸だけど、中国の信号機は数字も出ていました。あと何秒で赤になるのかの数字が出てきて、分かりやすいです。

三つ目は、薛埠中心小学に行つて交流をしたことです。学校の中に入る前から中国の生徒たちは、日本語で「こんにちは」と、言つてくれました。最初は「中国語で言うかな。」と思つたけど、予想とは違つていて、中国の人は優しいと思いました。

まずは、中国の生徒たちの歌を聴いたり、おどりを見たりしました。私たちは中国の曲「春はどこに」を中国の生徒たちと歌いました。交流会の後、日本のおみやげと中国のおみやげを交換しました。私は、コマやまんげきょうなどをあげました。中国のおみやげは切り絵となわとび、竹とんぼでした。切り絵を見たとき、私ではできないくらいきれいなちょうの切り絵で、うれしかったです。私は、細かい切り絵はしたことがないけど、中国の人はしているのですごいと思いました。また、交流会が終わった後、なわとびの授業を見ました。私たちもいっしょに、

なわとびをしました。私だったら、自分から進んではなわとびを貸さないけど、中国の人たちは、自分からなわとびを貸してくれて、私とは違うところを見つけました。なわとびのあとは、黒い画用紙に、竹の鉛筆をつかって絵を描きました。私はいすを描きました。いすを描くと虹色になってとてもきれいでした。日本の学校ではしたことがないので、新鮮で楽しかったです。中国の小学校のトイレには扉がついてなかったのに驚きました。扉のないトイレで初めてしたので、いい経験になりました。

四つ目は、竹鎮中日友好小学校で、学校見学と授業体験をしたことです。学校には、入り口の所に大きなスクリーンがあって、池もありました。池はけっこう大きくて、いいなと思いました。授業体験では、傘に絵を描きました。傘に絵を描くことを初めて体験して、日本ではしないこと、日本と違うところを見つけました。

また、授業体験では、絵の具をつかったとき、優しくパレットを私の所に近づけてくれて、とてもうれしかったです。自分よりも遠いところにあるのに、手を伸ばしてとってくれて、すごいなと思いました。

私は、最初中国に行くのが不安でした。中国の人とちゃんと

交流できるか不安でした。でも、行ってみるととても充実して学ぶことができました。中国に行って学んだことを自分だけでなく、周りの人たちに広げ、今後も友好を続けていってほしいと思います。

中国訪問

小原小学校 出口 結梨

中国を訪問していろいろなことを知りました。例えば、日本と中国のちがいです。食べる時のテーブルは中心部分が回るようになっていて、その上にいろいろな料理をのせていました。そして、食べたい料理があれば、その円いところを回して取りました。また、中国の家の二階の窓のところに洗たく物を干していて、日本のように一階の外には干していませんでした。

二・三日目にちがう小学校と交流しました。二日目は、薛埠中心小学でした。この小学校では、中国の踊りをたくさん見せてもらいました。中国の踊りは、日本とちがって激しくジャンプをしたり、大きな声を出したりしませんでした。とてもなめらかでおちつく感じでした。おどりの衣しゅうは、短いドレスのようでした。それに、みんなお化粧もしていました。

中国の子どもたちがたくさん踊りを見せてくれたので、私たちも「もみじ」「ソーラン節」「魔法の鈴」「エビカニクス」を歌ったり踊ったりして披露しました。少しだけ緊張したけど、大丈夫

夫でした。

三日目は、竹鎮中日希望小学校との交流でした。でも、希望小学校に行く前に中国の博物院に行きました。博物院に入る前、看板に「博物院」と書かれていて、日本では「博物館」なのだと思います。とても不思議でした。

博物院に入ると、イヤホンを渡されました。みんながスイッチを入れて耳につけ始めたから私もまねをすると、通訳の人の声が聞こえてきました。そう、それは、通訳の人の横に行かなくても説明を聞くことができるイヤホンでした。通訳の人の声が聞こえなくてもメモがとれないという心配がなく安心でした。

博物院の中では、六千年も前の化石や玉石など、物がたくさんありました。それを見ながら通訳の人の話を聞いたので、どんな時にどのように使うのかということがよくわかりました。見た中で印象に残っているのは、石でできたネックレスやイヤリング、それに田んぼや川の神様などをまつる時に使う物です。ネックレスやイヤリングは今でもあります。ダイヤやキラキラ光る宝石は入っていませんでした。でも、石をけずって好きな形にしています。「昔から女性は自分を美しくしていたんだな。」と知りま

した。神様をまつる道具で、田んぼや川や食べ物、一つひとつのものに神様がいると教えてもらいました。昔の人は、全員神様を信じていたと知りました。

博物院の後、竹鎮中日希望小学校と交流をしました。二日目の小学校も同じだけど、学校の外にある運動場よりも庭や池の方の敷地が広がったです。

この小学校では班に分かれて交流をしました。一班は「こま」、二班は「なわとび」でした。私は一班だったので、こまをしました。こまといっても、日本のようにこまにひもを巻いて回すのはありませんでした。とても不思議でおもしろい形をしていました。それに回すというよりも、ひもにこまをぶら下げて右手と左手を「上下」「上下」にして回しました。見た目よりもすごく難しかったです。だから、はじめはうまくできずひもがからまるばかりでした。でも、中国の子どもたちが積極的に、やさしくていねいに教えてくれました。中国の言葉はわからなかったけど、自分で見て見せてくれてジェスチャーで教えてくれました。

また、日本語で、

「わたしの名前は、何何です。友だちになりましょう。」

と言ってくれてとてもうれしかったです。わたしたちは中国語の練習は少ししかしてなかったので、あまり覚えていませんでした。だから、中国の子どもたちとはあく手をするこじかできませんでした。でも、こまをうまく回して、そのこまがとてもいい音を出していたので、わたしもうれしい気持ちになりました。

中国に行っているいろいろなことを知ったり楽しんだりすることができました。中国の子どもたちと絵を描いて遊んだり、中国の景色を見たり、博物院に行ったりしたことです。

今回の交流で中国のことが好きになりました。交流した人といつか会えるといいです。その時に中国語が少しでも話せるようになりたいです。だから、中国の本があつたら手に取って読んだり日頃からたくさん漢字を書いたりしたいです。

日中友好交流訪問団

小原小学校 島田 雄陽

「ついに申し込みが来たぞ。」

去年から中国に行きたいなと思っていたので中国交流の申し込みが来て、中国に行くことが決まってくれしかったです。

八月、福岡銀行F F Gホールに中日青少年友好大会に行きました。薛埠中心小学校の人と「春天在哪里」を歌いました。緊張して声があまり出せませんでした。次の日、ぼくが築上町の蔓松亭に神楽を舞いに行くと、薛埠中心小学校の人がいました。続けて交流ができてよかったです。

第一回、第二回、第三回の事前学習では、中国語や中国で出す物の練習をしました。そして十一月、いよいよ中国に出発です。ぼくは朝からドキドキでした。築城の支所に集合し、みんなでバスで空港に行きました。空港に着いて、出国手続きをして、飛行機に乗りました。日本を離れるのは初めてだから不安だったけど、楽しみの方が強かったです。

中国に着いてまず感じたことは、建物や看板に書いている文字が漢字だから日本と似ているなということです。でも、築上町と

比べて高いビルがたくさんありました。中に「酒店」と書いている建物があり、はじめは「酒屋さん」と思っていました。でも、「酒店」と書いて「ホテル」という意味だと聞いてとても驚きました。なぜ泊まる所なのに「酒」という字を使うのかなと思いました。また、中国の建物のネオンの明かりが空の色を変えていたもの印象に残りました。信号も日本に比べて少ないと思いました。事故があつて移動に時間がかかり、ホテルに着くともう十一時でした。それからご飯を食べたりお風呂に入ったりして、やつとふとんに入った時は十二時を過ぎていました。一日目は移動ばかりでとても疲れていたもので、すぐにねむれました。

二日目の朝、ぼくは楽しみで早く起きました。二日目は、金壇薛埠中心小学校を訪問です。この小学校はぼくたちの小原小学校と比べてとても大きかったです。まず、ぼくたちがダンスや歌などを披露しました。緊張して南中ソーランのろこぎの向きをまちがえてしまったけど、最後まで一生けんめいに踊るとたくさんの拍手をもらい、とてもうれしかったです。それから、体育の授業を受けて一緒になわとびをしました。大なわをして、すごく続いて楽しかったです。美術の授業では、いすの絵を描いて、そのいすにかざりつけをしました。この学校の人たちはとても絵が上手

でした。いろいろな人から話しかけられ、一緒に遊んだり笑ったり話をしているうちに仲良くなりました。違う国で言葉も通じないけど、友達になれたのがうれしかったです。また機会があれば、一緒に遊びたいと思いました。

この日は南京のホテルに泊まりました。とてもきれいでした。ぼくたちが泊まる前に、どこかの国の議長さんが泊まっていたと聞いて、そんな高級なホテルに泊まれるなんて光栄だなと思いました。

三日目は、まず南京博物院に行きました。いろんな昔の物がありました。六千年くらい前の入れ物がありました。そしてそれが、何千年もの間に日本に伝わってきたとわかりました。青銅器という四千年くらい前に作られた物もありました。神社にあるかねのような楽器もあり、「中国の打楽器はほとんどがかねの形」と言っていました。昔のものを見て、中国の歴史はすごいなと思いました。

次に、竹鎮中日友好希望小学校に行きました。ここでもなわとびをしました。一番うれしかったことは、ぼくが二重跳びをするとかたくさん拍手をもらったことです。大なわもして、すぐに仲良くなりました。この小学校では、ぼくたちが日本から持ってきた

おみやげを渡しました。とても喜んでくれたので、一生けんめい作ってよかったです。

ホテルにもどり、最後の夜なので、帰りの用意をしました。そして最後の夜を楽しみました。もう終わりなのかと思うと、少し寂しい気がしました。

四日目、とうとう日本に帰る日になりました。ぼくは、この交流団員になりとてもいい経験ができました。全然知らない土地に行き、言葉も通じないので不安もあつたけど、みんなとてもいい人たちばかりで楽しく交流ができました。ぼくたちは、築上町・福岡県・日本の代表として行きました。この経験を生かして、これからの学校生活や人との交流に役立てたいです。そして、中国でのことをいろんな人に話して伝えていきたいです。

四日間という短い期間だったけど、いろんなことがつまった四日間でした。また、このような機会があればぜひ参加したいです。引率してくださった町長さん、教育委員会の方、学校の先生方、貴重な経験を本当にありがとうございました。

中国に行ってみて

上城井小学校 岩本 佳大

ぼくが日中友好交流会に参加しようと思ったのは、海外に行ったことがなかったこと、中国の小学校が日本の小学校とどこが違うかを知りたいと思ったこと、中国の文化や歴史に興味があるということからです。ぼくの学校からは一人しか参加しなくてとても不安だったけど、今回の旅行を通して他の小学校の生徒となかよくなれるようにがんばろうと思いました。

一日目は、主に移動でした。バスで築上町を出発するとき、少しさびしい気持ちになりました。でも、わくわくした気持ちの方が強かったです。飛行機で上海の空港に着いてからバスで移動し、その日は、上海から金壇区まで行きました。中国は、交通量が多く、渋滞や事故が多かったのにおどろきました。それから、大型トラックは赤色が多いことが分かりました。

二日目は、朝から金壇薛埠中心小学に行きました。バスで行く途中に、三輪の乗り物を見つけるなどしていると、薛埠中心小学に着きました。ぼくたちを薛埠中心小学の友だちが温かくむかえ

てくれました。最初に、芸能交流会がありました。はじめの方の話が終わってから、薛埠中心小学の友だちが踊りを披露してくれました。そして、「春はどこに」という歌を薛埠中心小学の友だちと一緒に歌いました。ぼくたちは、「魔法の鈴」をリコーダーでふきました。それから、「ソーラン節」を踊りました。「エビカニクス」を薛埠中心小学の友だちと一緒に踊りました。すべて成功したので良かったです。それから、記念品贈呈がありました。薛埠中心小学の友だちから、一人一人に記念品をもらいました。お返しに、ぼくたちからは、万華鏡やコマなどを贈りました。

芸能交流会の後、薛埠中心小学の友だちの授業を参観しました。なわとびの授業をしていました。使っているなわを見ると、ぼくたちがいつも使っているのとはちがっていて、本当のなわでできているようでした。準備運動もなわとびを使ってしていました。すごいと思ったことは、なわとびをしている人がとびなわから横へとずれていって、他の人と一緒にとんでいったことです。ぼくも薛埠中心小学の友だちと一緒に大なわとびを跳びました。二人でうまく引つかからずにとぶことができました。とても、楽しかったです。

次に、美術の授業を薛埠中心小学の友だちと一緒に受けました。

薛埠中心小学の友だちと協力していろいろなイスのデザインを考えました。はじめにイスの土台をかきました。次に、イスのデザインを決めていきました。決めたりするときに言葉がわからないので、お互いにジェスチャーなどをして通じ合いました。そして、すてきなイスの絵が完成したのでうれしくなりました。

三日目は朝早くから、南京博物院を見学しました。入って少し進むと、昔の生き物の骨がありました。ぼくがびっくりしたのがマンモスのような骨です。とても大きかったです。次に進むと、昔の人が使っていた石があり、けずられていました。そして、博物院を見てまわると墓がありました。墓に入っている人の身分が高いと玉石などが入っていることがわかりました。昔の人のアクセサリーのようなものもありました。そして、神様をまつる道具や中国ではじめに作られた青銅器がありました。船は大きな木をくりぬいてつくっていたことも知りました。他にも、当時の打楽器で、日本で見つかっている銅たぐによく似ているものもありました。それから、いろいろな陶器や剣や槍などの武器を見ました。ぼくが特に心に残ったのは、金印です。社会の教科書にのっているのと同じようでした。実物はもっと大きいと思っていたけど意外と小さくてびっくり

しました。

南京博物院の見学が終わって、竹鎮中日友好希望小学校に向かいました。行く途中に、気付いたことは、中国はベランダに直接ふとんなどをほさずに、鉄さくの前にあるぼうにかけていることです。友好希望小学校に着くと、友好希望小学校の友だちとぼくたちはかきを作りました。友好希望小学校の友だちと協力して作ることはできなかったけど、作って交換することができました。

四日目は一日目と同じで移動ばかりでしたが一日目とちがいで電車に乗りました。ぼくがびっくりしたのは、駅でも空港のような荷物検査があったことです。駅は、ぱっと見は空港かと思うぐらいに大きかったです。築上町には予定より早く着くことができました。中国に行って、日本と中国の同じところやちがうところをたくさん見つけることができました。中国語は漢字ばかりで難しいと思っただけど、なんとなく読むことができました。日本と中国の関わりの歴史的な深さを感じました。このような体験をさせていただいた築上町の方々に感謝しています。

生まれて初めての中国

葛城小学校 大畑 真翔

ぼくは、築上町の交流会で十一月七日から十一月十日まで中国に行きました。葛城小学校から行くのは、ぼくだけでした。行く前は知っている人がいなくて心配でしたが、友達の友達などもいてすぐ仲良くなれたし、同じ部屋の人やぼくと同じで学校から一人しかいない人もいたからすぐに友達になりました。しかし、「旅先で事故が起きないだろうか」「排気ガスは大丈夫だろうか」などいろいろな心配でした。心の中で自分に「大丈夫」と言い聞かせていました。

二日目。ぼく達はまず薛埠中心小学に行きました。着くとすぐ、子ども達が、「こんにちは」や「いらっしやいませ」などと日本語でしゃべってくれたり、拍手で迎えてくれたりしました。おもてなしが上手だなと思いました。そして、交流会がありました。中国の人たちは、おどりも上手で、歌声もきれいでした。それに、一緒に歌う時、ぼくよりも小さい人たちも横で上手におどっていてすごいなと思いました。

そして、体育の授業を見学しました。日本では準備運動をし

てから始めるけど、中国では、なわとびのなわを持っておどってから始めていました。それも、二人でとんだり、三人でとんだりとみんな簡単そうにしている、中国の人はなわとびが上手だなと思いました。そして、一緒になわとびをしました。とぶ時手を引っ張って連れて行ってくれたり、知らない人なのに人見知りなどせずに話しかけてくれたりしてすごいなと思いました。

次の授業は、美術でした。黒い紙に木のえんぴつでいすの絵をかきました。白い紙にえんぴつでいすの部品をかいで、黒い紙のいすに取り付けました。はさみで紙を切る時、はさみを貸してくれたり、ジェスチャーで切り方を教えてくれたり、言葉は通じなくてもジェスチャーで伝わるのが分かりました。

三日目。南京博物院に行きました。そこには、青銅で作られた矢や剣、ほこ、そして、青銅器の打楽器や昔のえらい人の墓などもありました。お墓は、日本と同じで、えらさによって大きさや中に入れる物が変わることが分かりました。青銅器は、お寺にあるかねのようなものを小さくして、いっぱい木の棒にぶら下げているものでした。他にも、昔の女性が身に付けていたアクセサリーや大きな丸木舟などもありました。その中でも

特にいろいろな金時計が心に残りました。シカの形をした人形がついていたり、龍の時計があつたりすごくキラキラしていました。ぼくは、これらの展示品を見て、日本に伝わる時、少し変化したものも全く変わらずに伝わったものもあることに気がつきました。そして、日本に伝わる何年も前から、中国には、せん細なものを作る技術があつて驚きました。中国には長い歴史や文化があることに気がつきました。その歴史や文化をもつと知りたいと思いました。

午後、竹鎮中日友好希望小学校に行きました。学校のまわりを歩くと、葛城小学校とはちがい、池やキャラクターの人形や以前の交流の写真などがありました。サッカーゴールや植物が植えているのは同じでした。

そして、中国の遊びを体験しました。ぼくはコマ回しをしました。日本のコマとはちがい、砂時計のような形をしたプラスチックのコマでした。それを両手で左右にひもを動かし回すものでした。やり方を先生がジュエスチャーで教えてくれました。何度も何度も教えてくれたので楽しくできました。それに一度だけコマを上にあげて、ひもでキャッチできました。途中で女の子が来て、

「わたしは、ようです。」

と日本語で自己紹介してくれました。日本語が上手でした。その女の子も他の中国の子もみんなコマ回しが上手で、歩きながら回したり、すごく速く回したり、左右に動かしたりすごいなと思いました。ずっと昔からある伝統的な遊びだから、小さい時から練習しているのだろうなと思いました。

今回の中国での交流を通して、日本と中国は昔から交流が深く、現在まで続いていることが分かりました。それに、これからも中国との交流を続けていかなければならないと思いました。なぜなら、ぼくは中国に行く前は、中国は排気ガスなどで、空気がよくない国だと思っていました。実際に行ってみると、きれいで清潔だなど印象が変わったからです。中国での交流は、安全で楽しいものになりました。ぼくは、また中国に行きたいと思いました。

体で感じた中国

西角田小学校 番場 茉莉愛

私が「中国に行こう」と思った理由は、二つあります。一つ目は、父の住んでいる中国に興味を持ったからです。私の父は今、中国の重慶という所に住んでいます。いつか私も行ってみたいと思っていたところに、築上町と中国との交流会についての案内を見ました。これは、中国を学べる良い機会だと思い、参加を決意しました。二つ目は、母に進められたからです。そして、他の国をしっかりと自分で見に行ってみたいと思うようになりました。

最初は、西角田小学校からの参加は一人だったので少し不安でした。けれど、いろいろな人が積極的に声をかけてくれたおかげで、安心して活動することができました。

一日目は、築城支所からバスで福岡空港まで行きました。福岡空港に着き、いろいろな手続きをしました。常にパスポートを首からさげ、荷物もしっかり持って無くさないように気をつけました。椎田小学校の校長先生から、「パスポートは絶対、体からはなさず持っておいてください。無くしたら中国から何日も帰れなくなるかも

しれません。命と同じくらい大切です。」という注意がありました。時々、パスポートと飛行機のチケットはあるか、確認しながら歩きました。そして、飛行機に乗り、上海空港へ行きました。機内食を初めて食べましたが、パンやご飯、煮込みなど日本人の好みにあわせた食事でした。

上海空港についてバスでホテルに向かいました。上海の第一印象は、木が少なく、ビルの明かりがとてもまぶしいということでした。私が一番おどろいたのは、車が多く、車間距離が短かった事です。車間距離を十分に取る日本とは違い、中国では一メートルくらいまでつめていました。バスに乗っているとき、前の車にぶつかりそうでした。少し怖かったです。

二日目は、中国の小学校「薛埠中心小学」の方々と交流をしました。小学校の方々は日本と中国の旗をふって日本語で「こんにちは」と元気よく出迎えてくれました。午前中はお互いの国の伝統的な踊りをひろうし合いました。中国の方々は「書道や絵を、校長先生が笛をふいている間にかく」という出し物を見せてくれました。笛はとても長く、高い音が出ていました。先生や生徒の方々が書いた字はとてもきれいでお手本の字のようでした。私たちは「もみじ」

を合唱したり「ソーラン節」を踊ったりしました。見ている人たちからたくさん拍手をもらうことができました。しっかりと日本の伝統を伝えることができ、うれしく思いました。

お昼は小学校から少し離れたお店で食べました。食事の時に二つおどろいたことがありました。一つ目は箸の長さです。日本のお箸よりも長く、慣れるのに時間がかかりました。二つ目は食事の時に水ではなくお湯を飲むことです。中国では、寒い時期に水を飲むと体に悪いと言われているそうです。これに慣れるのにも大変でした。

午後からは、中国の方々と授業を受けました。まず、体育をしました。縄跳びの練習でした。後半からは私たちも一緒にしました。中国の方々が優しく手を引いてくれてとてもうれしかったし、楽しかったです。次に、美術をしました。中国の方々とペアを組み、イスを描きました。言葉は通じなくともジェスチャーなどで描きたい所を示し合い、かわいい熊のイスを描くことができました。外国の方々と交流するとても良い機会になりました。

三日目の午前中は、南京博物院に行きました。狩りをしていた時代の人々がしていたアクセサリーや、今から百〇五十年前のレトロ

な街並みなどを見ることができました。昔の日本の暮らしととても似ていると感じました。

午後からは、「竹鎮中日友好希望小学校」の方々と交流をしました。小学校では、明るく大きな声で迎えられました。そこで、五年生と縄跳びをしました。お互いにペアを組んで、笑い合ったりほめ合ったりして、とても楽しく過ごしました。

私は今回の日中友好交流会に参加して、中国の様々な文化を知ることができました。また、日本とは違った街の様子を目にすることができました。そして、たくさんの方々の優しさにふれ、中国の良さを感じ、交流の大切さを学ぶことができました。写真や動画で知るより、実際に行き、体で感じ、様々なことを学ぶことが大切だということも分かりました。これから私はたくさんの方に外国のことを知ってもらうために、私たちが中国で学んだことを伝えていこうと思います。そして、このような交流会に多くの人が積極的に参加し、世界を広げてほしいと思います。

築上町日中友好交流訪問団に参加して

八津田小学校 須山 零昇

ぼくは、日本と中国のいろいろな違いを知りたいと思ったことと、友達をたくさん作りたいと思い、訪問団参加を希望しました。僕のクラスは十六人しかいないので、他の学校や他の国の人達とも仲良くなれると思ったからです。

訪問団に選ばれ、三日間の事前研修があり、そこで初めて他校の友達と会いました。保育園や習い事の友達もいたので、楽しい集団生活ができそうだとわくわくしました。

研修では、福岡へ行き事前に練習していた「春天在哪里」という歌を歌いました。春が来た喜びを表す、リズムの良い歌なので元氣よく歌うように心掛けました。中国の人達の出し物は、中国の伝統的な踊りなどの演舞がありました。みんな息が合っていて、堂々と、本物の龍が踊っているようで、印象的でした。

二回目の事前研修では、自己紹介や他校の友達との交流がありました。中国語で会話したりして仲を深めました。他には出し物の練習をしました。「もみじ」の歌を歌い、「魔法の鈴」という曲をリコ

ーダーで演奏しました。

事前研修を終えて、待ちに待った三泊四日の中国研修。家で何回も荷物の確認をし、シュミレーションをして当日にそなえました。

まず、バスで空港へ一時間かけて移動しました。空港では、手荷物検査や手続きがありました。

飛行機に乗るのが初めてだったので、少し緊張しました。飛び立つしゅん間のふわっとした感じがおもしろいと思いました。窓から見える景色は天気が良くてきれいでした。友達と話していると、あつという間に中国に着きました。バスの中で移動中に見えたビルのイルミネーションが、日本から来た僕たちを歓迎してくれているようにうれしくなりました。

一日目はそのままホテルに行き、次の日にそなえて、部屋でルームメイトとゆっくりすごしました。きんちようした一日だったけど、次の日の予定を考えながら、いつの間にか寝ていました。

二日目になりました。朝食はバイキング式で食パンやベーコンがありました。日本とは味がちがいました。朝食を食べ終わるとバスに乗って薛埠中心小学へ行きました。中国の小学校の人達との交流は、一番楽しみにしていたことでした。今年は初めての試みで、

中国の体育の授業と一緒に受けました。体育では、縄跳びをしました。中国では二人跳びや大縄をしていてクラスメイトと楽しくしている姿を見て、日本にいるクラスの友達を思い出しました。運動を通じてクラスの友達の仲が深まる様子は、日本と同じでした。僕たちも授業に参加して、言葉が伝わらなくても縄跳びで交流することで仲良くなり、うれしく思いました。

交流が終わり昼食を食べに行きました。ピーマンのような物がいしそうだったので食べると、めっちゃ辛くてびっくりしました。

三日目は、竹鎮中日友好希望小学校へ行きました。ここでは、こまを体験しました。こまと聞いて日本のようなひもを巻いてひっぱってまわすこまを予想していました。けれど中国では、ひもの両側をもってその間にこまがあつて、ひもを上下にさせてこまをまわす遊び方でした。簡単にできると思ったけど、思ったよりむずかしくて、最初はできませんでした。中国の小学生がコツを教えてくださいました。何回も練習してまわすことができるようになりました。中国の小学生ともとても仲良くなれたと思います。

こまの次は美術を体験しました。美術ではイスの絵を描きました。描き方が日本とちがって棒で黒い紙をほつていろいろな色を出し

てイスを描きました。中国の小学生といっしょに描いて分からないところは、ジェスチャーで伝え合いました。この交流を通して仲が深まったと思いました。

四日目は、朝が早くて少しねぼうしました。この日はバスで駅に行き、新幹線に乗って上海へ移動しました。新幹線は日本とあまり変わりませんでした。バスに乗りかえて空港に着きました。空港では手続きや手荷物検査をしたりして時間がかかりました。みやげを買う時間が十五分しかなく慌てて空港でみやげを買いました。家族と部のみんなへおみやげを買いました。飛行機では一時間半友達と話していると、あつという間に日本に着きました。空港でバスに乗って築上町に帰り着きました。帰り着いたときは一安心しました。

この研修を通して、他校の友達とふれあえ、中国でできた友達とたくさん知り合うことができました。日本とはちがう文化にふれ、これからも新しいことにどんどんチャレンジしていきたいなと思いました。このような研修に参加できてとても幸せです。

お世話になった先生方、ありがとうございました。

築上町日中友好交流訪問団の感想

八津田小学校 古野 凌士

十一月七日、僕は初めて中国に行きました。着いて一番最初に思ったことは、上海空港の滑走路が大きく、福岡空港と比べると二倍ほどあるように感じました。そしてバスで金壇区というところを目指しました。バス移動の途中で中国の街並みを見ると、福岡の街並みと同じくらい栄えていて、交通量も多く、福岡とほぼ同じような感じだったけど、マンションなどの周りは黄色や青色に光り、目立つ建物でした。そしてホテルに着き初めて中華料理を食べました。自分が知っている中華料理はエビチリや小ろん包などの料理だけど、出てきた中華料理は知っている物がなく全てが見たこともないものでした。料理を取るときはお皿のようなものが真ん中にあり、その上にお皿を置いて回して取るような方法でした。おはしも長く、日本と食べ方も料理もちがっていました。食べる物や食べ方などでも文化のちがいを味わいました。全ての品を食べてみたけど、おいしい物があつて、おなかいっぱいになるまで食べられました。

二日目は薛埠中心小学へ行きました。まず午前中におどりをす

ることになりました。それは曲に合わせておどる方法で、やっぱりおどりは世界共通でした。しかしおどりの曲やそのおどり方はちがっていて、文化のちがいが分かりました。お昼はレストランに行つてご飯を食べました。メニューの中にタケノコと鳥が入っている料理があり、その中に鳥の足が入っていました。見た目はニワトリの足がそのまま入ったような見た目だったけど、通訳の人が「おいしい。」といったので食べてみました。足の骨があり、周りに身のよなものがあり、プリプリしていて味はしませんでした。見た目は衝撃的だったけど、おいしかったです。

午後の交流会では縄跳びをしました。まずは縄を地面に置いてその上を跳び、その周りを走ったりする方法のウォーミングアップを見てその後、歌に合わせて準備体操をしているところを見学しました。まず縄跳びが始まり大縄のお手本を見せてくれました。八の字に跳ぶので日本と変わりとあるところとないところがありました。ここでやった大縄は日本と同じく一人で跳ぶ方法と何人かでうでを組んで跳ぶ方法です。一つの運動でも文化のちがいがあつておどりました。

次に絵を中国の人と一緒に描きました。黒い紙を鉛筆の形をした

木の棒でけずってイスの絵を描きました。また二枚の紙で好きな絵を油性ペンで描けたので、ライオンの絵と一緒に描きました。言葉が通じない人と交流するのは不安だったけど、中国の人が「ここを描いて」などと指示をしてくれて、一緒に描くことができました。

三日目は南京にある博物館「南京博物院」に行きました。中国では博物館の大きさによって呼び方が三つほどあり、その中の一つが博物院ということだそうで、その中でも歴史があるものを見ました。その中で一番おどろいたのはお墓です。中国のお墓と日本のお墓と全く同じようなので、形がちがっても入っているものやまいそうの方法がほぼ同じでした。日本と中国が昔から交流をしているということが教科書に書いてあったように同じだったので、博物院を見た中で一番びっくりしました。

その次に竹鎮中日友好希望小学校に行きました。最初に校庭を見て回りました。この学校は日本の校庭とはちがい、庭に近い形になっていました。そこから三つのグループに分かれて中国の人と交流しました。僕は縄跳びをするグループになりました。まず、薛埠中心小学でしたように大縄で八の字で跳び、その後にくでを組んで跳ぶ方法をし、普通の縄が出てきました。一人で跳ぶと思っていた

らふつうに跳んで同じ縄で二人や三人で跳ぶやり方で、日本では跳ぶ技はあるけれど、中国は跳び方にもちがいがありました。中国は大縄ではなくても二人や三人で縄跳びができて一つの遊びでたくさんがちがいがあったから、身近な遊びでも日本とちがいがたくさんありそうで、調べてみるとおもしろそうだと思います。そして、時間になってお土産交換をし、僕はお礼の言葉を言いました。自分が中国語で言えるところは中国語で言い、自分が交流してどう思ったかを伝える事ができました。小学校の近くの街並みは築上町よりはずれば、田舎になっていました。僕は中国の全てが上海くらいの建物があると思っていたけれど、自分のイメージとかけはなれていて、外国にも田舎があるとは想像もつきませんでした。

四日目、新幹線に乗り、南京から上海に行き福岡空港に帰ってきました。行く前には「トイレは大丈夫だろうか?」「食べ物は何に合うだろうか?」と心配だったけれど、トイレは大丈夫だったし食べ物もおいしかったので、中国の文化を知ることできて、思い出に残る楽しい経験になりました。

日中友好相互交流事業に参加して

椎田小学校 竹口 奏優

ぼくが日中友好相互交流事業に応募した理由は、社会科で日本には中国の歴史や文化が古くから伝わってきていることを習い、中国がどのような国なのか実際に行って自分の目で確かめたいと思ったからです。

一日目。日本から離れてしまうのかと思うとなんだかさみしい気持ちになりました。同時に、まだ行ったことのない中国はどんな国なのかと考えているとなんだかドキドキしてきました。飛行機に乗って外の景色を見ると、日本が小さく見えました。機内食は、ぼくの口にはあまり合いませんでしたが、空腹を満たせてよかったです。さあ、いよいよ中国に到着です。

中国の空港は、とても広くてびっくりしました。空港からはバスで移動し、時間がかかりました。バスから景色を見ると、家の屋根の色が赤や青でカラフルだと思いました。

二日目は、金壇区薛埠中心小学への訪問です。ソーラン節をおどると思うと朝から緊張してきました。ホテルから出た時の町

並みは、一軒家が少なくホテルやマンションが多く、日本とのちがいを感しました。「自分は、今、外国にいるのだな。」と再確認しました。

小学校での交流会では、先生と子どもたちが出し物をしていました。ぼくのイメージでは、男子が出し物をすると思っていたけれど、女子が多くて少しばびっくりしました。ぼくたちは、練習してきたソーラン節やリコーダー、歌を披露しました。中国の人たちは、はずかしがらずに一人一人が真剣におどっていて、すごく練習したのだらうなと思いました。午後、小学校の体育の授業を見学しました。縄跳びをいっしょにしました。みんなで大縄をして中国の人とふれあえてとても楽しかったです。

三日目の午前中は、南京市内の博物院を見学しました。日清戦争中に作られたすべて金色でできた時計が展示されていてびっくりしました。中国では、女性はいきれいなアクセサリをたくさん身につけて美しく見せる習慣があったことや、お墓は身分によって大きさやお供え物の量が決まっていたということを初めて知りました。

午後は、竹鎮中日友好希望小学校に行き、中国の遊びをいっし

よにしました。中国伝統のコマの回し方を教えてもらいました。日本のコマとはちがい、二本の棒を使って回すのでとても難しかったですが、教えてもらって最後には少し回せるようになりました。言葉は通じなくても、交流ができて楽しい時間を過ごせました。

食事の時にも日本とのちがいを見つけました。いろいろな肉が使われていて、味もいつも食べる日本の中華料理とちがい不思議な味だなと思いました。料理の最後にいつもスイカが出てくることもおどろきました。

四日目は、バスで新幹線の駅まで移動しました。すごく大きな駅で、ホームまでは遠かったです。新幹線の車両は日本の新幹線よりも長いなあと思いました。それだけたくさんの人が利用するのだと思うと、中国の人口の多さをあらためて感じました。上海駅に着いた後、空港までバスで移動して、空港でお土産を買いました。お土産売り場では、中国の食べ物を多く売っていました。店員さんには日本語が通じる人もいて、多くの日本人の観光客が中国に来ているのだと分かりました。

いよいよ日本に帰るときが来ました。飛行機に乗るとき、中国

で仲良くなった友達のことや、中国での出来事、学んだことなどいろいろなことを思い出しました。言葉は通じなくても仲良くなれることも知りました。飛び立つとき、中国の景色を忘れないようにしようとしつかり目に焼き付けました。飛行機が福岡空港上空で着陸態勢になったときに見えた日本の景色や、バスで高速道路を走っているときに見た看板の日本語、車の運転席が右にあることなどを見ると、日本にいたことを実感しました。やっぱり日本が一番いいなとほっとしました。

初めて中国に行つて、たくさん経験をしました。いっしょに授業を受けて仲良くなった中国の友達のこと、同じ部屋になって協力した他の学校の友達、日本と中国の食事のちがい、中国の学校の様子や授業に参加したことはすべて忘れません。これから、中国に行つて分かったことをもつと詳しく調べて知識をたくさんえ、周りの人たちに伝えていきたいです。

最後に、引率して下さった築上町の関係者の皆様と先生方、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。ありがとうございました。

中華人民共和国に行って

椎田小学校 後小路 輝汰

ぼくが、この日中友好相互交流に行きたいと思った理由は、「日本から中国の距離と日本と中国のちがい」について知りたかったからです。

日本と中国は「となりの国」というイメージがあつたので、ぼくは今まで近い国だと思っていました。しかし、飛行機に乗ると二時間くらいかかりました。日本と中国の距離は、思っていたよりも遠くてびっくりしました。中国の空港は、とても広くてバスで移動しなければならぬくらいでした。広いということは、たくさんさんの飛行機が離着陸しているので、たくさんの人が中国に観光に来ているのだなと分かりました。

入国手続きをすませると、バスに乗ってホテルに向かいました。その途中に外を見ると、高いビルやホテルがたくさんあり、自分が思っていたイメージとちがう景色でした。ぼくたちが泊まったホテルも、とても高い建物でした。ホテルの中は、ローマ神殿のような日本にないデザインで、中国は建物にたくさんお金を

かけているのかなと感じました。

そして夕ご飯。中国の食事でおどろいたことは、角煮や野菜のいためものなどのたくさんの種類の料理が食べきれないくらい出てきたことです。中国では、スイカがでてきたら、食事が終わりという合図だと知り、日本とちがうなと思いました。スイカは、多くの中国人が好きだということ、中国では一年中どこかでとれるのでたくさん食事の時に出てくることも分かりました。

ホテルの部屋でテレビを見てみると、日本では十チャンネルくらいしかないのに、なんと中国では三十をこえるチャンネルの番組が放送されていました。いろいろなジャンルの番組を見られることにおどろきました。

二日目は、金壇区薛埠中心小学に行きました。ここでは、ダンスや音楽をお互いに見せ合って交流しました。中国のダンスは、みんなの動きがそろっていて、細かい動きもできていました。ぼくたちとはちがって、やわらかい動きを得意としたダンスで、すごいなと思いました。ダンスの後、トイレに行くと、日本とは全くちがうトイレでした。かべに水が流れているだけで、横のかべがありません。通訳の人が、「このトイレが残っているこ

とはめずらしい。」と言っていたので貴重だと思いました。

交流会の後、昼食会場に移動してお昼を食べました。その後、また学校に戻って、中国の小学生といっしょに授業を受けました。図工では、中国の小学生とペアでいすの絵を描きました。中国の子の絵を見たら、色のぬり方が上手でライオンの絵の毛が本物のようになっていました。中国の人は、日本人よりも絵を描くセンスが高いと思いました。

次の日は、博物院に行きました。そこでは玉石が印象に残りました。玉石は、昔、宝石と同じくらいの価値のあるものでした。高級なので、ふつうの人は動物の骨のアクセサリーをしていたそうです。いつも美人になりたいと気を配っていたことは、今も昔の人も日本も中国の人も同じだと思いました。この博物院を見学して、中国と日本は昔から交流があったことがよく分かりました。

その日の午後、竹鎮中日友好希望小学校に行きました。ここでは、コマ回しを体験しました。日本とはちがって、バランス感覚が必要なコマです。二本の棒についた糸でコマを回します。最初はどううまくできると思っていたけれど、やってみると意外と難しく

できませんでした。これを上手に回せる中国の人は、「すごくバランス感覚が高いな。」と感じました。この学校からの帰り道、外を見ると、バイクに乗っている人がヘルメットをかぶっていませんでした。日本よりも車やバイクがたくさん走っているのが危険だと思いました。「なぜ、ヘルメットをかぶらないのだろう。事故が起きないのかな。」と不思議に思いました。

最終日。空港の近くまで新幹線で行きましたが、駅もすごく大きくてびっくりしました。電車が何十台も停まれるほど大きなホームもありました。ここでも、中国の人の多さを感じました。車は、日本と同じような車でしたが、タイヤが三つしかない車もあり、車にも違いを見つけました。

ぼくは、初めて中国に行って日本とのちがいを知り、他の国にも行ってみたいと思うようになりました。大人になったら、他の国にも行って日本とちがう文化を知りたいです。今回、一番学んだことは、日本と中国ではたくさんの違いもあるけれど、同じところもあったことです。似ているところがある国どうしなので、これからも日本と中国はもっと仲良くなっていけるのではないかと思います。

日中友好相互交流事業に参加して

椎田小学校 上田 康介

ぼくが、日中友好相互交流事業に参加した理由は、日本以外の国を見てみたかったし、日本に近い中国の文化を知りたいと思ったからです。

初日は、家から集合場所に集まるまではすぐわくわくしました。しかし、築上町から福岡空港に向かうバスの中では、飛行機が落ちたらどうしようと不安な気持ちで変わっていく景色を見ていました。中国行の飛行機に乗り込み、しばらくすると機内食が出てきました。機内食の味は日本の料理の味と少しちがっていて、味が濃いなと思いました。上海の上空になると、空からたくさんの建物が見え、中国にきたのだなと感じました。上海浦東空港に着くと福岡空港よりも面積が広いのでびっくりしました。バスに乗って移動する時に、高層ビルがたくさん見ええました。上海は、築上町とちがって大都会でした。ホテルの看板に「酒店」と書いていたので、酒屋さんと勘違いしていました。日本と中国のちがうところは、中国はすべて漢字を使うということです。その漢字も、日本の漢字とすこし

ちがうものもありました。中国では、簡単に書いている漢字もたくさんあると知りました。

二日目は、常州市の薛埠中心小学を訪問しました。たくさん中国の小学生が笑顔で手をふってくれました。このように歓迎してもらったのは初めてだったのですごくうれしかったです。小学校の中に入るとすぐに交流会が始まりました。中国の小学生の出し物は、男女が分かれていて、日本とのちがいを感じました。ぼくたちは、ソーラン節をおどりました。その後、中国の小学生と一緒に「エビカニクス」のダンスをしました。テレビ局の取材でテレビカメラがあったのに、中国の小学生は緊張していないように見えたのです。と思いました。

昼食を食べた後に二つの授業を体験しました。一つ目はスポーツの授業でした。みんなで縄跳びをしました。日本のぼくたちがしている縄跳びとは違って、縄を回す速さがゆっくりなので跳びにくかったです。二つ目は、絵の授業でした。ぼくたちは今、学校できれいな絵、本物のような絵を描くようにしているけれど、中国の学校では、自分が思うように自由に絵を描いていいなと思いました。ぼくたちは中国の小学生とペアで絵をかきました。言葉はわ

からなかったけれど、ジェスチャーなどで分かりやすく教えてくれてうれしかったです。交流を終えて帰る前に、少しだけ中国の小学生とバスケットボールをしました。中国の小学生は、とても上手でした。言葉は通じなくても、二つの授業体験やバスケットボールなどの交流で、中国の小学生と仲よくなることができました。

薛埠中心小学の訪問を終えて、バスで南京市へ向かいました。バスから見える風景は日本と似ていて、ビニルハウスやいけすなどがありました。中国に来る前は、中国の車は古いんだろうなと思っていたけど、すれ違う車はみんな新しく、日本製や外国製の車まで走っていたのでおどろきました。

三日目は、午前中に南京博物院を見学しました。展示してあったのは、日本の縄文時代のころのものに似ていました。女性が身につけていたネックレスやイヤリング、大きな木を彫ってつくられた船などがありました。青銅器でできた入れ物があり、お酒や水を入れていたそうです。ぼくはあまり昔の中国について考えたり、想像したりすることがなかったけど、いろいろな展示物を見て、日本と中国が古くから交流があったことや、日本の文化が中国の影響を受けていることを知ることができました。

午後は、南京の竹鎮中日友好希望小学校を訪問しました。ここでも拍手で迎えてくれました。授業体験では、中国の小学生といっしょに中国コマをしました。コマと言っても日本とちがって、二本の棒を使って回し、上に飛ばします。中国の小学生が優しく教えてくれたけれど、なかなかうまくできませんでした。この小学校を訪問しておどろいたのは、トイレのドアと便器がなかったことです。母から話を聞いていましたが、実際にあるとは思いませんでした。

最終日は、新幹線で上海に移動しました。中国の新幹線の形は日本の新幹線とよく似ていましたが、車内にテレビ画面があったところがありました。

今回の交流事業に参加させてもらって、中国の町の様子や小学校の様子を知ることができたことと、中国のたくさんの小学生と交流できたことはとても良い経験になりました。これからは、椎田小学校のみんなに、学んだ中国の文化などを教えてあげたいです。

引率してくださった方々、関わってくださった方、ありがとうございました。

日中友好交流で学んだこと

椎田小学校 前田 桜來

私は、日中友好交流を通して、中国の文化や学校の様子、日本とのちがいを知りたいと思い参加しました。この三泊四日で、初めての経験がたくさんありました。

一日目はバスに乗って福岡空港まで行き、そこから飛行機に乗って中国へ行きました。私は生まれてから一度も飛行機に乗ったことがありません。私にとって、飛行機は今まで怖い乗り物だと思っていました。出発する日の朝、お母さんに「離陸の時は、ガタガタゴトゴトとゆれて、ピューツと飛ぶよ。」と言われ、「本当かな。」と疑っていましたが、本当にそのとおりだったのでびっくりしました。思ったより怖くなくて、飛んでいる時の外の景色は、まるで雪の中のような白い世界でした。途中で機体がゆれて心配したけれど、無事に着いた時には安心し、本当に中国に着いたのだとわくわくしました。中国に着いてまず気づいたことは、車のちがいです。日本では、車は左車線を走りますが、中国では右車線を走っていました。中国の車の上はガラス張りになっているものもあり、日本ではなかなか見かけないのでびっくりし

ました。

二日目は、築城小学校と姉妹校の薛埠中心小学を訪問しました。私たちが知っている学校と違い、校舎がとても大きかったです。交流会では、まず中国の人たちが出し物を見せてくれました。中国の人たちの踊りはみんなそろっていて一生懸命だったので、自分も負けなようにがんばろうと思いました。私たちは、中国の歌を歌ったり、ソーラン節を踊ったりしました。中国のみんなに日本の文化が伝わるように、力いっぱい声を出したのでとても疲れました。最後のプログラムの記念品贈呈では、中国の人からお土産をもらいました。その中身は、切り絵や日本にはないおもしろい物が入っていて、ここでも日本とのちがいを感しました。

三日目の午前中は、博物院を見学し、中国の昔の文化についても学びました。日本で弥生時代につかわれていた青銅器が中国にもあり、その種類もたくさんありました。亀の形をした金印はとてもきれいでした。特に印象に残ったものは、貴族の家にあったという時計です。金メッキでつくられていて、見るだけでわくわくしました。歴史で学習した日本の昔のものに似ているものもあって、昔から日本と中国が交流があったことが分かりました。

博物院を後にして、私たちは椎田小学校の姉妹校である竹鎮中日友好希望小学校を訪問しました。学校の中に庭園があつて、とてもきれいな学校でした。この学校では、コマ回しの授業を体験しました。日本のコマとはちがい、二本の棒でコマをあやつるのが難しかったけれど、中国の小学生に教えてもらつてできるようになり、うれしかったです。

どちらの学校もトイレに壁がなくてびっくりしました。はずかしかったけれど、このようなトイレを使うことはめつたにないのととてもよい経験になりました。

最終日は、中国の新幹線に乗りました。座席は二列と三列になつていたので、日本と同じところもあるのだと分かりました。

私はこの四日間で、二つのことを学びました。

一つ目は、友達と協力する大切さです。四日間、同じ学校の子だけでなく、他の学校の子とも過ごしました。班の友達とは、いろいろなことを協力しました。家族と離れての生活でさみしくなつた時もありましたが、新しくできた友達と協力して活動しているうちに、自分でできることも増えて自信がついてきました。これからも、友達と協力することを忘れずにいろいろなことにチャレンジしたいです。

二つ目は、中国の人はとてもやさしいということです。竹鎮中日友好希望小学校でコマで遊んでいるとき、なかなか回せなくて困っていると、中国の子がやさしく教えてくれました。しゃべっている言葉は全然わからなかったけど、ジェスチャーで教えてくれたり、実際にやつて見せてくれたりしてとても分かりやすかったです。コマが引つかかったときも中国の子がほどうて助けてくれました。だから、中国の人はとてもやさしいと感じました。そして、言葉は通じなくても、心は通じると分かりました。

外国に行くのは生まれて初めてのことでしたが、今回の交流をきっかけとして、他の国にも行つてみたいと思うようになりました。また、機会があつたら今度は家族と行つてみたいです。そして、いろいろな文化や日本とのちがいを調べて知識を増やしていきたいです。

最後に、中国語を教えてくれた通訳の孫さんや、中国についてたくさん教えてくれた王さんにお礼を言いたいです。ありがとうございました。

中華人民共和国に行つて

椎田小学校 花田 ひより

私は、今までニュースや家族の話を聞いて、中国は空気が汚いなどの悪いイメージを持っていました。しかし、実際に行つてみると、空気も汚くなくていいところだと思いました。

私は、中国に行つて危ないところと良いところを見つけました。危ないと思つた一つ目は、車と車の間がせまいところです。日本よりも車が多く、たくさんの車がくっつくように走っていました。車と車の間がせまいと事故も多くなるのではないかと思いました。二つ目は、バイクに乗っている人がヘルメットをつけていなかったことです。日本ではヘルメットをつけるのがきまりなのに、なんでだろう、事故が起きたら大丈夫かなと思いました。

よいと思つたところの一つ目は、中国の人がみんな親切で笑顔だったところです。小学校の授業で分からないときに手をひっぱつて教えてくれました。周りの人たちを見ると、みんなニコニコしていて安心しました。外国でも、笑顔が大切だと感じました。二つ目は、中国の人はおもてなしを大切にしているところです。夕食では、たくさんの料理がどんどん出てきて、私たちをもてな

してくれたのがうれしかったです。

二日目に、薛埠中心小学に行きました。初めて中国の小学校に行つておどろいたことは、トイレです。ドアや水を流すレバーもないのでどうやって使うのだろうとびっくりしました。交流会では、中国の人は緊張を顔に出さずに堂々と演技をしていて、すごいなと思いました。私たちも負けないようにソーラン節を力いっぱいおどりました。大きな声で真剣におどつて、中国の人に拍手をもらった時はうれしかったです。その後、実際に中国の授業を受けました。日本と同じところは、作品を見たり、説明をしたりするのに、プロジェクターを使つていたところです。

三日目の午前中に行つた博物院では、人間が生まれる前の動物の骨を見ました。これは、日本にも似ているものがあるなと思いました。大昔のイヤリングや身分の高い人がつけていたネックレスなどを見て、中国では大昔からこんなおしゃれなものをつけていたのだなおどろきました。大きなお皿があり、その上には必ず竜の絵や「喜」という文字が書かれていました。これは、結婚式で使われると聞き、日本とはちがうなと思いました。中国の歴史や、日本と中国が大昔から関わっていたことなど、いろいろなことを知ることができてよかったです。

三日目の午後に訪問した竹鎮中日友好希望小学校では、大縄や縄跳びの体験をしました。途中から入って二人で跳んだり、大縄に二人で入ったりするなど、いろいろな飛び方を体験しておもしろかったです。大縄で二人や三人がいっしょに跳ぶのは初めてで、最初は息が合わなくて難しかったけど、だんだんと息もぴったりになって連続して跳べるようになりました。日本にも大縄や縄跳びはあるけれど、二人や三人で跳ぶという飛び方はしないので、貴重な体験ができてよかったです。そして、言葉は通じなくても、ジェスチャーや表情で気持ちが伝わり、息を合わせる事ができると分かりました。

中国で食事をする時に最初に目に入ったのは「おはし」です。日本のさいばしくらい長くて持ちにくかったです。料理でおいしいと思ったのは、スイカや肉まん、ギョウザです。食事では毎回スイカが出るので「なぜこの季節にスイカがあるのだろう。」と不思議に思いました。帰りに校長先生から、「スイカは中国の人が昔から好きな食べ物で、スイカが出たら、『これで食事は終わります。』という合図です。」という話を聞き、食の文化のちがいを知りました。料理はおいしかったけれど、中国のごはんはあまり好みではありませんでした。日本のお米がとてもこいしくな

りました。

バスで移動しているとき、サービスエリアのトイレでも日本とちがいをを見つけました。トイレトペーパーもなく、流せないトイレでした。外国人が日本のトイレを見て感動したという話を聞いたことがあります。それほど、日本のトイレはきれいで便利なんだと日本のよさも分かりました。

外国での生活では、慣れることが大切だと思いました。小学校のかべのないトイレも二回目に使った時は、もう慣れてはずかしくなかったです。日本とちがうからいやだなと思って、やってみると慣れるので、勇気を出して体験してみるとその国のことをもっと知れる気がしました。

私のように、中国についてはじめは悪いイメージをもっている人がいるかも知れません。でも、実際に行っているいろいろなものを見たり体験したりすると中国のよさを知ることができます。イメージだけでなく、自分で体験してみることが大切だと分かりました。今回、中国に行ってたくさんのことを学んだので、学校の友達や低学年の人たちに学んだことを伝えて、多くの人に中国のことを知ってほしいです。

中華人民共和国に行つて

椎田小学校 岡部 宣法

ぼくがこの日中友好相互交流事業に参加した理由は、中国の小学生と授業を一緒に受けたり、中国の知らなかった文化や習慣、人々を見たりして、自分で学んだことを学校の友達や家の人に伝えるためです。

一日目は、ほとんど移動でした。まず、中国の空港に着陸する前に飛行機の中から下をのぞくと、大きな田んぼみたいな池がたくさんありました。次の日に、それがいけすだと知り、そんなにたくさんがいけすがいるのかなとおどろきました。上海空港から金壇のホテルに向かいました。夜になると、高速道路はトラックだらけになりました。特に車を運ぶトラックが多く、中国でもたくさんの車が使われていることが分かりました。車道で、右側を通っていることも意外でした。アメリカなどは右側で日本や中国は左側のイメージだったけれど、中国も右側だったので、世界では車が右側を通る国が多いのかなと思いました。

やっとホテルについて看板を見ると、築上町の「築」の字が「筑」になっていました。最初はただ字をまちがえているのかと思ってい

たら、どこに行っても「筑」という字になっていました。日本と中国では使う漢字がちがうことにおどろきました。ホテルのロビーにある自販機には、お金を入れるところがなくてQRコードがついていました。ほとんどの人が携帯で買っていました。日本だったら、買えない人も出てきそうだなと思いました。一日目は移動だけだったけれど、おどろくことばかりでした。

二日目は、薛埠中心小学に行き、交流会をしたり、授業を一緒に受けたりしました。交流会では、まず中国の小学生が絵や習字を書きました。同じ小学生が描いた作品だとは思えないくらい上手で、それを見た瞬間、中国の小学生のすごさが分かりました。交流会が終わって、学校のトイレを借りると、かべに水が流れているだけでトイレトペーパーもなくてびっくりしました。中国の小学生はどのように使うのか見てみたいです。

午後からは、授業を一緒に受けました。体育の授業で、縄跳びを見せてくれました。準備体操では、床に縄を置いていろいろな走り方をしていました。縄は、ぼくたちが使っているプラスチックやロープとちがいで、ひもにビーズみたいなものをつけていて大きな音になります。跳び方もぼくたちは一人一人跳ぶ跳び方しかしていないけど、中国では、一度に三人で跳んでいて、この授業で日本と中国

の文化のちがいが分かりました。この跳び方は日本でも伝えられるので、楽しくできる中国の跳び方を、友達と一緒にためして中国の楽しさを伝えたいです。

美術の授業では、ペアで絵を描きました。ペアの人は、話しくそうな人だと思っていたけど、あいさつをしてくれたり、ジェスチャーで何を描くか、どこに線を引くのかななどを教えてくれたりしました。中国の人のイメージがすぐにやさしい人になりました。授業の内容も日本とちがいました。日本の図工は、描いたり作ったりするものが決まっているけど、中国では大まかなお題があつて、そこからは自分で考えて作るので自由な作品ができると思いました。

三日目の午前中は、博物院に行きました。外から見るととても古そうなのに、中に入るととても広くてエスカレーターもありきれいでした。古い建物を残したままで工事をしたのだと中国の技術の高さを知ることができました。社会で学習した時代よりも何千年も前に、お皿などの道具が使われていて、中国から日本に文化が伝わってきたことがよくわかりました。

午後からは、竹鎮中日友好希望小学校に行きました。新しい校舎で庭園もあり、学校の玄関には大きなスクリーンもありました。校

舎の中も広くて、階段の踊り場に通路があり迷いそうになるくらいでした。時間がなくて交流会はできなかったけれど、授業と一緒に受け、中国の小学生とたくさんふれあえることができました。例えば、縄跳びでは、最初から一緒に跳び、中国の小学生と二人で同時に跳んだり、ペアでいろいろな跳び方をしたりして、仲良くなることができました。

そして、最終日。この四日間で一番おどろいたのはこの日でした。新幹線に乗る前の荷物検査で、お土産で荷物が重くなり、台に載せるに苦労していたら、検査をする人が「がんばって。」と中国語で言ってくれました。エスカレーターに乗るときに荷物が引っかかって困っていたら、知らない中国の人が手伝ってくれました。日本人よりもやさしいなと感じうれしくなりました。

初めて中国に行って、知らなかった中国の人の人がらや文化をたくさん知ることができました。これをきっかけにこれからも他の国に行って、いろいろな国の文化や人がらを学んでみたいと思いました。

中国に行つて

椎田小学校 大森 健生

中国に行く前は、テレビを見たり人に聞いたりする印象で、PM 2・5などで空気が悪く、料理もそこまでおいしくないところだと思つていました。けれど、実際行つて分かったことは、自分の考へていた中国と違つて、空気は日本と変わらないくらいきれいで、料理は辛いものもあつたけど普通においしかったです。

日本とのちがいは、他人にあいさつする習慣がなくて、あいさつしてもほとんどの人があいさつを返してくれないことです。他には、車の通る道路が日本と反対で、右側を通つていました。だから、車のハンドルが左にありました。バイクに乗る人は、ヘルメットをかぶらないといけないいきまりがなく、ほとんどの人がヘルメットをかぶらず走っていました。危なくないのかなと思ひました。

中国に行つて、特におどろいたのが、トイレです。中国では、使つたトイレトーパーを流してはいけませんでした。トイレトーパーが日本よりかたく、流すとおまるからだそうです。それに、訪問した小学校のトイレは、ドアがありませんでした。仕切りだけ

でした。そのことを帰つてからクラスのみんなに話すと、「使つたトイレトーパーをゴミ箱に捨ててくさくないの」「ドアがなくではずかしくないの」と、とてもおどろいていました。でも、学校の校門が自動で開いたり、電光掲示板があつたり、コマレを小さくしたような講堂があつたりしたのはすごいなと思ひました。

日本の物まねをしたようなゲームやお菓子が売っていました。「えっ」と言いそうになるくらいおどろきました。

日本も中国も漢字を使う国ですが、中国に行つて知つたことは同じ漢字でも意味がちがうものがあるということです。中国の「酒店」とはホテルということでした。道路を通るときたくさん見たので、ホテルが多いなと思ひました。行つたホテルにも「酒店」と書いてありました。

信号機は日本より便利がよく、信号機の横にあと何秒で信号の色が変わるか教えるものがありました。

二日目、小学生と交流がありました。一校目の中国の小学生の出し物は、息が合つていて、何もかも、最後の最後まで気を抜かず演技していました。僕たちが「エビカニクス」を踊ると伝えていたら、踊りの見本を見せなくても一緒に踊れるよう練習をしてくれてい

ました。僕たちは中国に行く前、「ソーラン節」や「リコーダー」の練習をしていたのですが、中国の小学生は僕たちの何倍も声が大きくて、息が合っていて、うまかったので、演技をして見せるのがはずかしかったです。けれど、頑張つて演技をしました。楽しく上手にできたと思います。一緒に授業もしました。「美術」と言っていました、日本の「図工」と変わりませんでした。中国の小学生は、緊張感を持たずに僕たちをさそつてくれました。僕は、「こんな人になりたいな」と、思いました。たくさん話したかったのですが、話せませんでした。でも、気持ちは伝わったと思います。バスケットボールも一緒にすることができました。もつと一緒に何かしたいなと思いました。

三日目の午前中に博物院にも行きました。歴史的な物がたくさん展示してありました。展示してある物の中には、日本に伝わった物もありました。特に心に残った物は、龍の話です。龍は、長生きをするという意味があるそうです。それでたくさんの物に描かれているのだなと思いました。

午後の二校目では、班に分かれていろいろなことをしました。僕の班は大縄でした。友達と一緒に腕を組んで跳んだり、一人ずつ跳

んだりしました。ここでもあまり話せませんでしたが、たくさんの人と大縄をすることができて楽しかったです。

帰る日は、「帰りたいな」という気持ちと、「帰りたくないな。まだ中国を見てみたいな」という気持ちがありました。でも、日本に帰ってきて親に会ったとき、ちよつと嬉しくなりました。

これから、一年生から六年生に、中国に行つて分かったことや感じたこと、学んだことなど僕が思ったことを伝えたいと思います。テレビを見たり、人に聞いたりするだけでは分からないことがたくさんあるんだなと、中国に行つて感じました。中国に行つてよかったです。

ぼくが中国に行って学んだこと

築城小学校 斉藤 英明

ぼくは日中友好交流事業に参加しました。ぼくが心に残ったことは料理です。ぼくが知っている中華料理と知らない中華料理が出てきました。日本の麻婆豆腐は少し甘くしてあるけど、中国の麻婆豆腐はからかったです。そして心に残っていることはトイレです。日本のトイレは男子便器が一つずつあります。しかし中国のトイレは男子便器が一つずつなく、水が流れているところにするようになっていました。最初は驚きましたが、二、三回で慣れてきました。

一日目、飛行機に乗って空高くから見た福岡市の様子は豆つぶのようでした。とてもこわかったです。機内食が出てきて、昼食を食べました。上海に着いて、バスから見た上海市の夜の景色はとてもきれいでした。たくさんビルがあり、とても明かりがまぶしかったです。また、中国の上海はとても発展していて、未来のような世界が広がっていました。それを見てぼくはとても驚きました。

研修二日目は、薛埠中心小学と交流しました。薛埠中心小学の生徒はとても縄跳びがうまく、いろいろな跳び方をひろうしてく

れました。中国の縄跳びは、日本の縄跳びと違って、ビーズのようなものが縄についていました。後で一緒に縄跳びをして交流をしました。出し物交流では、ぼくたちも練習した出し物をひろうしましたが、薛埠中心小学の生徒達の出し物はすごかったです。中国の生徒達は堂々としていて、恥ずかしがらずに演技をしていました。ぼくたちも見習わなければと思いました。

その後、昼食をとりました。昼食は中華料理でしたが、見たことのない料理がたくさん出されました。そこでしょげきだったのが、とりの足が出てきたことでした。それを通訳さんは普通に食べていました。昼食後、もう一度薛埠中心小学にもどり、交流をしました。午後の交流では、スクラッチで絵を描きました。まずはイスをかき、その上からいろいろな絵をかいいてイスに座らせるという作品です。ぼくと中国の子どもはドラえもんを描きました。言葉は伝わらないけど、ジェスチャーでわかり合えました。

薛埠中心小学はビルのような校舎でとても大きくて広かったです。その後、薛埠中心小学とお別れをしました。ホテルは前の日と違うホテルに行きました。そのホテルにはまた違った景色が広がっていました。夜の南京の町は活気があるなあと思いました。

三日目の研修では、最初に南京博物院に行きました。博物院の中には、何千年前の歴史がある土器がありました。日本より前にあつた土器でした。その土器は約六千年後に日本に伝わってきたそうです。また、身分の高い人が亡くなった時に、体によろいのような物を全身につけるそうです。それが平らな石のようなものがびつしりと縫い合わさっていてびつくりしました。歴史あるものを見た後は地下にいきました。そこに中国の昔の町並みを再現した建物がありました。昔の店や車がありました。電車も飾っていて、日本のSL

のようなものでかっこよかったです。その後、昼食をとり、そこでは麻婆豆腐が出てきました。とってもおいしかったです。その後、中日友好希望小学校に行きました。その小学校は築城小学校3個分くらいの広さでした。そこでぼくたちは、三班に分かれて活動をしました。ぼくたちの班は、傘づくりでした。傘に絵をかくのははじめてで、とても難しかったです。ぼくは傘にドラえもんの絵をかきました。やはり日本だけでなく世界でドラえもんは人気なので、すぐに中国の小学校の先生が気づいて話しかけてくれました。小学校の友達とはあまり話せなかったけど、一緒に活動することで友好関係が深まったと思います。描き終わった後、傘を交換しました。ぼくがもらった傘は、桜の花びらが舞っていて、とてもきれいな絵でした。

次の日、中国の新幹線に乗って上海空港に行き、上海から飛行機で福岡空港に行きました。

ぼくはこの研修を通して、いろいろなことを学びました。まず、築上町が昔から友好関係を築いていたのでとても大事に迎えてくれたと思いました。次に、人と人の交流は、お互い日本語と中国語でしゃべっていることがきちんと伝わらなくても、伝える気持ちがあれば、だいたいのことが伝わるということを学びました。

この研修はとてもぼくにとっては良かったです。

日中友好相互交流訪問団での学習

築城小学校 鋤崎 乃映

私が中国に初めて行って思ったことは、築上町とは違って、高層ビルがたくさん建っていて、夜の景色はキラキラ光っていたことです。また、中国と言えば「パンダ」ということもあって、看板などお土産売り場にパンダのイラストのものが多かったので驚いたし、さすが中国だなと思いました。

中国は、漢字の国なので、バスから見た看板には漢字が多かったのですが、その漢字が解読できそうなきや、解読できたこともあったので、楽しくておもしろかったです。また、「酒店」と書いて「ホテル」と読むと聞いていたのが驚きました。

一日目のホテルに行く途中に、いろいろな所で事故があったので、中国は事故が多いなと思いました。

バスで移動している時に、案内をしてくれた王さんが豆知識をたくさん教えてくれるので、とてもためになりました。その中の一つで、一番びっくりしたのは、水池で、「上海ガニ、ウナギ、魚」が育てられていることです。養殖場などで育てられているのかなと思

っていたので、そんな近くで育てられていることに驚きました。バスから外を見ると、日本では野良猫が多いけれど、中国では猫ではなく、犬の方が多かったように思いました。

中国は、バイクや自転車が車と同じくらいに多く、バイクに乗っている人が、寒くないようにする毛布みたいな物を手から足にかけていました。バイクが多いからこそその工夫だなと思いました。そして、自転車、バイクだけが通れる道路がありました。

南京は、夏が暑いから街路樹に木を植え、暑さをしのいでいるそうです。並木道は、夏は緑のトンネルと言われているそうです。

中国の博物院でも、色々なことを学ぶことができました。展示していた「石器」は、人類最初の生産道具だそうです。昔の時代は、お墓のサイズや一緒にまいそうされている服や物で身分の違いがあったそうです。玉石、今という宝石と一緒にまいそうされていると身分が高いなど、違いが分かりやすいなと思いました。最初は、人の骨などをネックレスやイヤリングにしていたそうです。他には、田んぼや土などの神様をまつるときに使う「宝石」もありました。まつる時にどんなことをしているのかと、とても気になりました。夏と書いて「か」、夏の時代、約四千年前に、一番初めの生産道具

ができたそうです。丸木舟という一本の大きい木をほってつくった船も展示していました。「これを手で作るのは大変だったろうな」と思いました。大きさも大きくて深かったのでびっくりしました。昔作られた打楽器も展示していました。大きくてかねの形でした。戦争で使われていた剣やつるぎも展示されていました。昔の時計も展示されていました。大きくて高級感がありました。このような時計を作っている所は「広州」「南京」が中心だそうです。時計は作ったところで素材が違うので、その所その所で楽しめるなと思いました。いろいろな大きな時計があったので、作り方が知りたいなと思いました。

小学校との交流での出し物のため、事前研修を三回行いました。内容は、「もみじ」の合唱、「魔法の笛」のリコーダー、エビカニのおどり、ソーラン節の踊りです。初めはなかなか上手にできなかったけど、みんなで練習を重ねて、元気よく上手にすることができたと思います。中国の小学生は、とても元気よく、堂々と演技や発表をしていました。私たちもこれから見習っていききたいなと思いました。また、中国語も少しだけ話せるようになりました。これからも色々な言葉を習って話せるようになっていきたいと思います。中

国の小学生と交流して、特に思ったことは、日本人の私たちに色々話しかけてくれたり、手を引つ張つて連れていってくれたりして、とても積極的だったことです。今度、中国の小学生が来たときに、私もいろいろとお世話ができればと思います。

中国に行つて、文化の違いや中国の小学校での体験授業など、中国のことをたくさん知ることができたことや、中国に行くために、いろいろなことが勉強できました。また、友達も増やすことができたので、この交流事業に参加できてよかったなと思いました。

四日間、二十三人と過ごしたことで、友達の大切さ、優しさを改めて実感することができました。今回こうして、いろいろなことを学ぶことができたことに感謝して、しっかり他の人にも伝えていきたいと思います。

日中友好交流に参加して

築城小学校 藏田 慶次郎

ぼくは、中国の南京市を訪問し、中国の小学生と交流したり、中国のいろいろな文化にふれたりしました。

最初に薛埠中心小学を訪問しました。築城小学校よりかなり人数が多く、校舎がとても広かったです。特に印象に残ったのは、縄跳びです。一つのなわで二人が同時にとんでいて、日本の小学生にはできないような跳び方をたくさんしていました。

次の日に、竹鎮中日友好希望小学校を見学しました。学校には野球場にあるような大きな電光掲示板がありました。また、日本庭園のようなものもあり、そこにはさまざまなオブジェがあつて公園のようでした。

教室は、薛埠中心小学や日本の小学校と同じで黒板があり、横にスクリーンがついていて、映す機械は上からつり下げられていました。

中日友好希望小学校では、小学生と一緒に傘に絵を描きました。ぼくが描いた傘と、中国の小学生が描いた傘を交換しました。ぼく

は、ドラえもんを傘に描きました。交換した傘には、きれいな桜の絵が描かれていて、とてもうれしかったです。

ぼくが中国に行つておどろいた事が四つあります。

一つ目は街の景色です。

上海の浦東空港に着いた時、福岡市のビルや周りの建物と比べて、びっくりするくらい大きくて数も多かったです。一軒家などはほとんどなく、高いタワーマンションばかりが建ち並んでいました。

二つ目は食事です。

一番インパクトが大きかった料理は、にわとりの足がまるごと入っていたスープです。正直に言うと、怖かったけど勇氣を出して食べてみました。食べてみるとおいしかったけど、にわとりの足を食べたのは初めてでした。

そして、食事の時一番文化の違いを感じたのは、毎回スイカが出ることです。中国では、スイカが出ることでもコース料理が終わりましたという合図だそうです。コース料理では毎回スイカが出てきました。

三つ目は、道路です。

中国は、日本より自転車、バイクに乗っている人が多く、専用道

路がありました。さらに、日本の車やバスの数より中国の自転車、バイクの数の多いと感じました。中国のバイクをよく見ると、前に毛布のようなものがついていました。なぜついていたか分からず不思議でした。自転車はふつうにこいでいるように見えても、スピードが速くバイクを追い越して走っていました。すごいスピードだと思いました。

四つ目は、トイレです。

中国の小学校を訪問したとき驚いたことは、男子便器が一つずつなくて溝に用をたしたことです。トイレに仕切りがなかったの少しはずかしかったです。

中国訪問の三日目には南京の博物院に行きました。中国の青銅器やマンモスの化石が展示していました。その中でもえらい人をまいそうするひつぎがとても印象に残りました。そのひつぎは、金や銀の石のようなものでかざられていました。きれいに光っていました。ぼくは歴史に興味があるので、そのほかにもめずらしいものがたくさん展示されているのを見て、とても楽しかったです。

ぼくは、この中国交流に行く前は、日本から出て中国に行くことが不安で心配でした。しかし、実際に中国に行ってみると、想像し

ていたよりも良い国で、とても楽しかったです。

この中国訪問を通して、自分の想像だけで勝手に判断するのではなく、実際に見たり聞いたり、体験することが大切だと思いました。

にわたりの足のスूपのように、第一印象だけでおいしくない決めつけるのではなく、勇気を出してチャレンジすれば分かることがあることを学びました。初めてのことにチャレンジすることはとてもこわいことです。これからも初めてのことに出会った時、逃げるのではなく、チャレンジしていこうと思いました。

今回の訪問では、日本と中国の文化の違いにとまどうことがたくさんありました。しかし、それを実際に体験することで、お互いの文化を認め合い、尊重することができたと思いました。

この中国訪問で学んだことを、これからの生活に役立てていきたいと思います。

築上町日中友好相互交流

築城小学校 田原 碧人

十一月七日水曜日から十日土曜日まで、中国を訪問しました。パスポートをとりに行ったり、飛行機に乗ったり、ぼくにとって初めての体験ばかりでした。

福岡空港から上海空港までは一時間四十五分でした。飛行機の中では、機内食を食べました。上海の気候は、日本とあまり変わりませんでした。二日目の朝に、雨が少しだけふりました。上海には日本のようなファストフード店がたくさんありました。ファミリーマートもありました。

一日目は、上海空港からバスで移動してホテルに向かいました。中国は日本に比べてバイクや自転車が多かったです。バイクと車では、道路が分けていました。この日、高速道路で事故があったので、ホテルへの到着時間が遅くなってしまいました。すぐに夕食を食べてシャワーを浴びて、疲れていたのですねすぐに寝ました。

二日目の朝は、ホテルでバイキングの朝食でした。肉まんがとってもおいしかったです。飲むヨーグルトがたくさん置いてあつてびっ

くりしました。その後、バスで移動して、薛埠中心小学に行きました。お互いの小学校で練習した出し物の交流会がありました。日本からは手作りで用意した万華鏡やこまなどのお土産を渡しました。薛埠中心小学からは、縄跳びと切り絵をお土産としてもらいました。ぼくたちは、みんなで練習したソーラン節とエビカニのダンスを踊り、リコーダーで「魔法の鈴」を演奏しました。そして「もみじ」の歌を歌いました。ソーラン節を踊った後に、薛埠中心小学の生徒達が盛り上がったのでうれしかったです。薛埠中心小学からは、海をテーマにした踊りや、習字や絵をかいているところを見せてもらいました。絵は、影を作って立体的だったので、上手だなと思いました。他にも午後からは、一緒に縄跳びをして交流したり、図工の時間に色々な種類のいすをテーマに絵をかいたりしました。言葉が通じ合わなくても、ジェスチャーで何となくわかり合えました。ぼくは、中国語で「ありがとう」の意味の「シェイシェイ」だけ言えました。

二日目のホテルは、お風呂にゆつくりとつかれたのでうれしかったです。ホテルの部屋は二人部屋でベッドが二つとテーブルといすのセットがありました。テレビは、中国語で分からなかったけど、

バスケットボールのチャンネルだけは、分かったので少しだけ観ました。部屋は広くてきれいで快適でした。夕食は、回るテーブルに料理が次々と出されてきて、回転させながら好きな食べ物をお皿にとって食べました。チンジャオロースがおいしかったです。二日目になると他の小学生とも仲良くなったので、バスの中や食事の時間も楽しく過ごすことができました。

三日目は、バスで移動して博物院にきました。博物院では、中国の歴史や文化について勉強してきました。案内をしてくれた「王」さんという男の人が分かりやすく、中国で発見されたマンモスの化石や博物院内に展示されている品物の説明をしてくれました。マンモスの化石は、大きくてすごく印象的でした。その後に、椎田小学校の姉妹校の中日友好希望小学校に行って、交流会をしました。ここでは、ペアを組んで縄跳びをしたり、全員で大縄跳びをしたりしました。運動場には陸上トラックの設備や卓球台が置かれていました。中国は、小学生のころから卓球が盛んに行われているんだなあと思いました。この日の夜は、ぼくたちを歓迎するための夕食会が行われました。この日も中華料理を食べました。自身魚の料理とエビ料理がおいしかったです。中国に行った四日間、ぼくたちはとて

も歓迎されているなと思いました。三日目の夜は、もう一泊とまって、動物園で遊んでパンダが観たいなと思いました。中国の人達とかけっこもしてみたかったです。

三泊四日の中国訪問でしたが、中国と日本は食事も違うし、街の雰囲気も違いました。トイレも違っていました。でも、小学校の生徒達は、日本の小学校と同じように、勉強や運動をがんばっていました。中国の生徒は、声が大きくて、はずかしがらずに堂々としていました。色々なことを体験できたので、中国交流訪問に参加できて良かったと思いました。

上海空港でおみやげを買う時間がありました。中国語が読めなくて迷っていたら、お店の人が日本語で教えてくれました。日本語も話せて、すごいなあと思いました。日本に帰って、お母さんの顔を見た時に、ほっとしました。そして家のご飯を食べたときにもほっとしました。全員が元気に訪問できてよかったです。

日中友好交流事業に参加して

築城小学校 白石 藍梨

私は、築上町の小学校と姉妹校である中国の小学校と交流するために、十一月七日から十日まで、中国に行ってきました。中国では、色々な体験をしてきました。

中国に行くのは初めてで、役場を出発する時は少し不安だったり、さみしい気持ちがあったりしたけど、同時にワクワクしている気持ちもありました。何もかもが初めての体験で、その一つが飛行機に乗ることでした。離陸する時は、ゴォーという音と一緒に後ろに引っ張られるような感覚があつて、びっくりしました。飛行機に乗っている途中、体全体に圧力がかかったような感覚もありました。

中国の高速道路は、日本と同じような感じでした。空港からホテルまで約二時間の予定でしたが、事故のためホテルに着いた時間は十一時でした。初日からとても大変な思いをしました。

二日目は、築城小学校と姉妹校の薛埠中心小学校を訪問しました。小学校に着いたとき、中国の小学生が日本と中国の国旗を持って元気に歓迎してくれました。そこでは、スポーツ、美術の授業を實際

に体験しました。中国の縄跳びは、縄の部分に二、三センチ程のストローのような物がついていて、回すとそれが重りになってよく回りました。中国の小学生はみんな運動神経がよくてびっくりしました。二重飛びを続けて何度も跳んでいたからです。

美術の授業では、黒い画用紙のような紙に、えんぴつで絵をかきました。中国の小学生達の絵は、日本の私たちがかく絵と似ていました。画用紙に名前を書くと、隣にいた女の子が「バイシアンリ」と呼んだので、それが中国語の私の名前の呼び方だと知りました。また、中国の小学生の踊りや歌は、堂々としてとても迫力がありました。私たちは、日本で練習した歌やダンス、ソーラン節をひろうしました。練習の成果が出せたのでよかったです。

三日目は、椎田小学校と姉妹校の中日友好希望小学校に訪問しました。この小学校では、三組に分かれて、一組目は唐ごま、二組目はとび縄、三組目は手芸に別れて授業を受けました。私は手芸を体験しました。

中国の手芸は、紙の形の傘に絵の具で自分の好きな絵や模様を描くというものでした。私は傘にお花の模様を描きました。自分の絵を描き終えたら、中国の小学生と交換し合って記念に持って帰りま

した。

私が二日間、中国の小学校を訪問して感じたことは、中国の小学生は積極的に話しかけてくれて、ちゃんと自分の意思を持っていて、何事にも真剣に取り組んでいる人が多かったと思いました。私も周りに流されないで、自分の意思を貫き通せる人になりたいと思いました。

日本人は少し遠慮して自分の思っていることをはっきりと口に出したり、行動に表したりすることが苦手な人が多いと思います。これからは日本人も中国の人のように、思ったことをはっきりと言って、自分の意思を最後まで貫き通せる人が増えたらいいと思いました。

他にも、中国の新幹線に乗ったり、博物院に行ったりしました。博物院では、最初の人類が使っていた生産道具や、神様をまつる時に使っていた道具などが展示していました。女性はオシヤレをする時、動物の骨をみがいて、イヤリングやネックレスにしていたようです。中国の歴史や文化、いろいろなことを知ることができました。私が中国に行って、初めて知ったことや発見したことは、まず道路が車専用の道路と自転車やバイク専用の道に分かれていたのが

びっくりしました。日本では、車とバイクが同じ道路で歩行者と自転車と同じ道路なので、バイクと車が別れていることに驚きました。さらに、バスで移動している時、外を見るといろいろな所に犬がいたのでびっくりしました。中国では、トイプードルやマルチーズなど、普段家の中で飼われていることが多い犬も放し飼いしていました。

初めて中国に行って、知らなかったことや新しく発見したこと、また、楽しかったことなど、全てのことがとても貴重な良い思い出になりました。また、外国に行って、色々な人とふれあい、交流をしたいと思います。中国での四日間は本当に良い体験になりました。

中国を訪問して

築城小学校 本城 智茄

私は、築上町の訪問団として中国に行き、たくさんのことを学ぶことができました。

一日目は、築城支所に集まり、出発式をしました。その時はごく不安だったけど、中国に着いた時は不安がなくなりました。中国の上海の景色は、イルミネーションがたくさんあったり、高いビルやマンションが建ち並んでいたりしました。ビルの高さは、日本でみるビルよりもはるかに高いものでした。夜のごはんは、中華料理でした。おいしかったです。

二日目は、薛埠中心小学との交流会でした。薛埠中心小学に着くと、たくさん的小学生が出迎えてくれました。それから交流会が始まりました。最初は薛埠中心小学の出し物で、書道をしていました。とても上手でした。その後、ダンスをおどったり、歌をうたったりしていろいろな出し物をひろうしてくれました。大きな声で歌ったり、みんなのふりがそろっていたりして、とてもすてきな出し物でした。自分たちも負けないようにがんばって出し物をしま

した。昼からは、薛埠中心小学で授業を体験しました。最初の授業は、スポーツの授業で縄跳びをしました。言葉は通じなかったけれど、ジェスチャーを使ってコミュニケーションをすることができました。次の授業は、美術の授業で、薛埠中心小学の小学生とペアになって一緒に絵を描きました。ペアの小学生がリードしてくれたので、スムーズに絵を描くことができました。ペアの小学生はとても絵が上手でした。どうしてこんなに上手なのかを聞くと、絵の教室に通っていると答えてくれました。また、薛埠中心小学では、地元のテレビ局のインタビューを受けました。

中国での学校訪問やホテルに行くときの移動中、気づいたことが三つあります。

一つ目は、バイクと自転車専用の道路があることです。

二つ目は、バイクと自転車が車よりも多く走っていることです。

三つ目は、街路樹の下部分が白色に塗られていたことです。いろいろと違いがありました。中国での食事の時は、回るテーブルでした。友達と大皿から食べたいものをとって食べました。味は、かいものやあまいものなどいろいろとありました。

三日目は、午前中に南京博物院に行きました。博物院には、中国

の古い歴史を感じることで、できるものがたくさん展示されていた。私が一番気になったものは、人類がこの世にまだいないときの、動物の骨があったことです。午後からは、椎田小学校と姉妹校の竹鎮中日友好希望小学校との交流会でした。最初に学校の庭を見学しました。とても広くてきれいでした。それから、三つのグループに分かれて授業体験をしました。私は手芸のグループに行きました。手芸のグループでは、紙の傘に絵を描く授業でした。何色でぬればいいのか分からない時に、ペアの小学生が絵の具を出してくれた。筆を用意してくれたりしてアドバイスをもらいながら作品をつくりました。とてもやさしい小学生でした。傘ができあがるとペアの人と交換しました。ペアの中国の小学生は花のようを描いてとてもきれいでした。小学校訪問の間には、地元のテレビ局からもインタビューを受けました。少し緊張しました。

夜のごはんは、ホテルで江蘇省の人達と食事をしました。中国では食事の最後にスイカがいつも出てきます。理由は、スイカが出る。と料理の最後という印だそうです。朝ごはんは三回ともバイキング料理でした。コックさんが目の前で料理を作ってくれてとてもおいしかったです。

移動中、長江という川がありました。川の幅はとても広くて、車で七分ほどこかりました。中国の広さを感じました。

四日目は日本に帰国する日です。最初にホテルから駅にバスで行き、新幹線に乗って空港に向かいました。空港ではお土産を買いました。お店の人は日本語が少ししゃべることができました。

私は中国に国際交流に行ってたくさんのことを学ぶことができ、中国のことをいろいろと知ることができました。今回のことを、これから生活に生かしていこうと思います。また、学校みんなにも中国のことをもっと知って欲しいと思いました。

今回はこのようなすばらしい体験ができ、本当に良かったです。また、このような機会があったら参加しようと思いました。

中国に行って学んだこと

築城小学校 大田 逢生

ぼくは、中国の小学校と交流するために、十一月七日から十日まで中国に行きました。

ぼくは、築城支所を出るときにちよつときみしくなって不安だったけど、楽しみでもありました。飛行機に乗るのは初めてだったので、とても不安だったけど、乗ってしまえば不安な気分がなくなりました。飛行機が離陸するときは、体が重くなって動きにくくなりました。少したつと機内食が出されたけどほんの少ししか食べられませんでした。飛行機から降りると、飛行場は飛行機の排気ガスで少しくさかったけど、すぐによくなりました。

その後、バスに乗ってホテルまで行きましたが、途中、事故で渋滞にあい、四時間ぐらいバスに乗っていました。やっとホテルについてご飯を食べると、もう十二時くらいになっていたからびっくりしました。ごはんはとてもおいしくて、たくさん食べました。ホテルの部屋もとても広くて高級そうだったので、とてもうれしくなりました。でもおふろがガラスばりで中が見えるのでびっくりしたけ

ど、カーテンでかくすことができることが分かってほっとしました。おふろから出ると、明日の着替えの準備をして寝ました。ベッドも広くてふかふかでした。

次の日は、早く起きて朝ご飯を食べに行きました。ぼくはチャーハンとゆで卵、ラーメンなどを食べました。いよいよ築城小学校と姉妹校になっている薛埠中心小学に行きました。小学校に行くと、赤いカーペットを敷いて、たくさんの人達が歓迎してくれました。中国の小学生の出し物を見た後、ぼくたちはソーラン節やエビカニダンスをおどりました。中国の人達もエビカニダンスと一緒におどりました。中国の小学生は、踊るとき全然はずかしがらずに、いっしょうけんめいおどっていて、すごいなあと思いました。次に小学校の授業に参加しました。初めはスポーツの時間でした。中国の小学生と縄跳びをしました。縄跳びでは、二人とびや大縄とびをしました。次は美術の時間でした。中国の小学生といっしょに黒い紙に絵を描きました。絵のテーマは「いす」でした。ぼくといっしょに描いた中国の小学生は、イスの背もたれに棒をつけていたので、日本と中国はちよつと違うなと思いました。初めて中国の授業を体験して楽しかったです。

二日目のホテルは一日目と違って近くでした。このホテルもとても良かったです。

三日目は午前中に南京市の博物院に行きました。ここには、中国の古い宝物がたくさんかざっていました。中国は古い歴史があるんだなと思いました。午後からは、中日友好希望小学校へ行きました。この小学校もしき地がとても広かったです。ここでは、三班に分かれて授業体験をしました。ぼくの班は中国ごまの体験でした。このごまは日本のコマと全然違っていました。このコマの回し方を中国の先生がジェスチャーで教えてくれました。初めはうまく回せなかったけれど、先生に教えてもらって、だんだんと上手に回せるようになりました。このコマで遊ぶのがとても楽しかったので、家に帰ったらさっそくコマを買いました。

小学校の交流が終わってホテルに帰り、夕食を食べました。この日の料理は、いつもよりもっとごうかな料理が並べられていました。そして、料理と一緒に、飲み物としてコーラやスプライトが飲めうれしかったです。

最後の日です。朝、帰りの準備のためスーツケースに服やお土産を入れて閉めようとしたけど閉まりませんでした。ぼくは、お土産

をたくさん買ったので、スーツケースがいっぱいになったようです。ぼくがスーツケースの上に乗って、友達にスーツケースのかぎをしてももらいました。帰りの飛行機では、ぼくは疲れて寝てしまい、機内食が食べられませんでした。途中で買っていたおかしを食べただけで、築城支所まできたのでとてもおなかがいっぱいでした。築城について、ほっとしました。

ぼくは、中国に行ってきたくさんのことを学びました。学校の様子も少し違うし、料理もちがっていました。また、中国語をしゃべれないからどうしようと思っていたけど、ジェスチャーでなんとなく言っていることが分かるんだなあと思いました。この日中友好相互交流に参加して、とても貴重な体験ができたと思いました。大人になったらまた中国に行こうと思いました。

交流活動写真

九州中日青少年友好交流大会（福岡市）8月1日



バスの中で歌の練習



リハーサル



フィナーレ（集合写真）



中国の小学生と会話



中国の小学生と一緒に歌



中国の踊り



中国江蘇省常州市金壇区友好交流訪日（築上町）8月2日



歓迎のお迎え



中国の踊り



中国小学生と築城小運営委員



日中児童
代表挨拶



中国の縄跳び



オープニング 和楽



合唱



調印式



ソーラン節

結団式、事前研修 10月20日(土)、28日(日)、11月3日(土)

日中友好相互交流事業
訪問団 結団式

団長(町長)挨拶



結団式

築上町日中友好相互交流
訪問団 結団式

宮内校長 中国訪問に向けて



リコーダー「魔法の鈴」

中国語会話練習



築上町日中友好相互交流
訪問団 結団式



ダンス「エビカニクス」



歌「もみじ」



ソーラン節

中国訪問 1日目 11月7日(水)



出発式



福岡空港



上海市の風景



ホテル



上海市夜景



飛行機の中



夕食



中国訪問 2日目 11月8日(木)



朝食



薛埠中心小学歡迎式



記念品贈呈



交流会



児童記念品交換



薛埠中心小学





体験授業（美術）



城壁付近、買い物



2、3日目ホテル



中国訪問 3日目 11月9日（金）



南京博物院



金印



地元高校生からのインタビュー



朝食



南京市内

中日友好希望小学校



記念品交換



唐し井回て



傘しり



縄跳び



中国訪問 4日目 11月10日（土）



上海



新幹線



お世話になった方々へお礼



解団式



平成30年度 築上町日中友好相互交流事業 中国訪問団 団員

小学生児童訪問団員

番号	学校名	氏名
1	下城井小学校	後藤 南菜子
2	下城井小学校	佐藤 惺南
3	小原小学校	出口 結梨
4	小原小学校	島田 雄陽
5	上城井小学校	岩本 佳大
6	葛城小学校	大畑 真翔
7	西角田小学校	番場 茉莉愛
8	八津田小学校	須山 零昇
9	八津田小学校	古野 凌士
10	椎田小学校	竹口 奏優
11	椎田小学校	後小路 輝汰
12	椎田小学校	上田 康介
13	椎田小学校	前田 桜來
14	椎田小学校	花田 ひより
15	椎田小学校	岡部 宣法
16	椎田小学校	大森 健生
17	築城小学校	斉藤 英明
18	築城小学校	鋤崎 乃映
19	築城小学校	藏田 慶次郎
20	築城小学校	田原 碧人
21	築城小学校	白石 藍梨
22	築城小学校	本城 智茄
23	築城小学校	大田 逢生

随行団員

番号	所属	氏名
1	築上町 町長（団長）	新川 久三
2	椎田小学校 校長（実行委員長）	宮内 智久
3	築城小学校 校長	是石 博幸
4	椎田小学校 教諭	三枝 ひとみ
5	築城小学校 教諭	出光 翼
6	築上町保健師	松本 梨沙
7	通訳	孫 濱紅
8	事務局（学校教育課）	繁永 和博
9	事務局（学校教育課）	太田原 成美



